

PXシリーズ リテーラー組立マニュアル

cervélo



目次

重要な情報。	.1
ツールと備品のリスト.....	2
PXシリーズ部品リスト。	3
小さな部品。	4
フレームとフォークの準備.....	5
フォークの取り付け。	7
ブレーキハウジングのルーティング。	9
電線配線。	11
機械ケーブル配線.....	12
ライザーポストの切断手順。	13
ライザーポストバッドマウントの取り付け。	14
延長アセンブリ.....	15
伸長角度調整。	16
アームカップヒバードの取り付け。	17
アームカップの位置。	18
分割ベースバー配線。	19
スプリットベースバーの取り付け。	20
一体型ベースバー配線.....	21
ワンピースベースバーの取り付け。	22
ライザーポスト配線。	23
ライザーポストアセンブリの取り付け。	24
エクステンション&ベースバー - Di2 ワイヤルーティング。	25
拡張機能ベースバー - eTap ワイヤルーティング。	26
延長部とベースバー - 機械的なケーブル配線。	27
スマートカバーの取り付け.....	28
Di2バッテリーの取り付け.....	30
電球工事。	31
機械ケーブルの取り付け。	32
SmartPakのインストール。	33
StealthBoxのインストール。	34
スピードコースの取り付け.....	35
シートポストアセンブリ.....	36
シートポストの切断手順。	37
タイヤクリアランス.....	38
エアロスルーアクスルの取り付け。	39

重要な情報

このマニュアルは、Cervélo販売店がPXシリーズバイクのセットアップとカスタマイズを行う際に役立ちます。このマニュアルは一般ユーザー向けではなく、適切な組み立てには指定の工具が必要です。また、このマニュアルには、Cervéloから直接注文した販売店のみが入手できる独自仕様のパーツも記載されています。

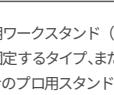
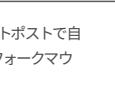
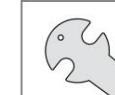
指定された部品を使用し、付属の組み立て説明書に従わない場合、走行中に制御不能となり、重傷を負う可能性があります。このマニュアルは、この自転車の組み立てに必要な手順と、このマニュアルに記載されている変更を行ったための手順の概要です。このマニュアルは、販売店がすべてのプロの自転車整備士に求められる最低限の知識とスキルレベルを有していることを前提としています。詳細は<https://www.probma.org/>をご覧ください。

ツールと備品のリスト

このマニュアルでは、PXシリーズ自転車のオプション調整を行うための手順をいくつか説明しています。これらの調整には、以下の工具と部品が必要です。Cervéloは、すべての組み立ておよび調整手順をCervélo正規販売店に依頼すること強くお勧めします。

注意: このマニュアルはCervélo一般ユーザーマニュアルを補完するために作成されており、コンポーネントメーカーが提供する組み立ておよび取り付け手順（ご自身の付箋）を補足することを目的としています。Cervélo PXシリーズのお客様/購入者で、このマニュアルをお読みになっている場合は、このマニュアルに記載されている手順を実行する前に、Cervélo正規販売店にご相談いただき、下記のウェブサイトをご覧ください。

www.cervelo.com/supportをご覧ください。
注: すべての新規コンポーネントは、地元の販売代理店から入手できます。

ツール	ツール
	自転車用ワークスタンド（シートポストで自転車を固定するタイプ、またはフォークマウント付きのプロ用スタンド）
	ペダルレンチ
	2.5Nm～15Nmの範囲のトルクレンチとアダプタ:
	六角ヘッドインサート: 2mm.2.5mm.3mm.4mm.5mm.6mm.8mm、 10mm
	油圧ブリードキット
	オープンエンドレンチ: 7mm.8mm.10mm.17mm
	イソプロピルアルコール
	Di2ワイヤーツール - シマノ
	高品質の自転車用グリースとカーボンセメント コンパウンド
	鋸切断ガイド (Park Tool SG-7.2または同等品)
	弓のこ (カーボン専用刃付き)

PXシリーズ部品リスト

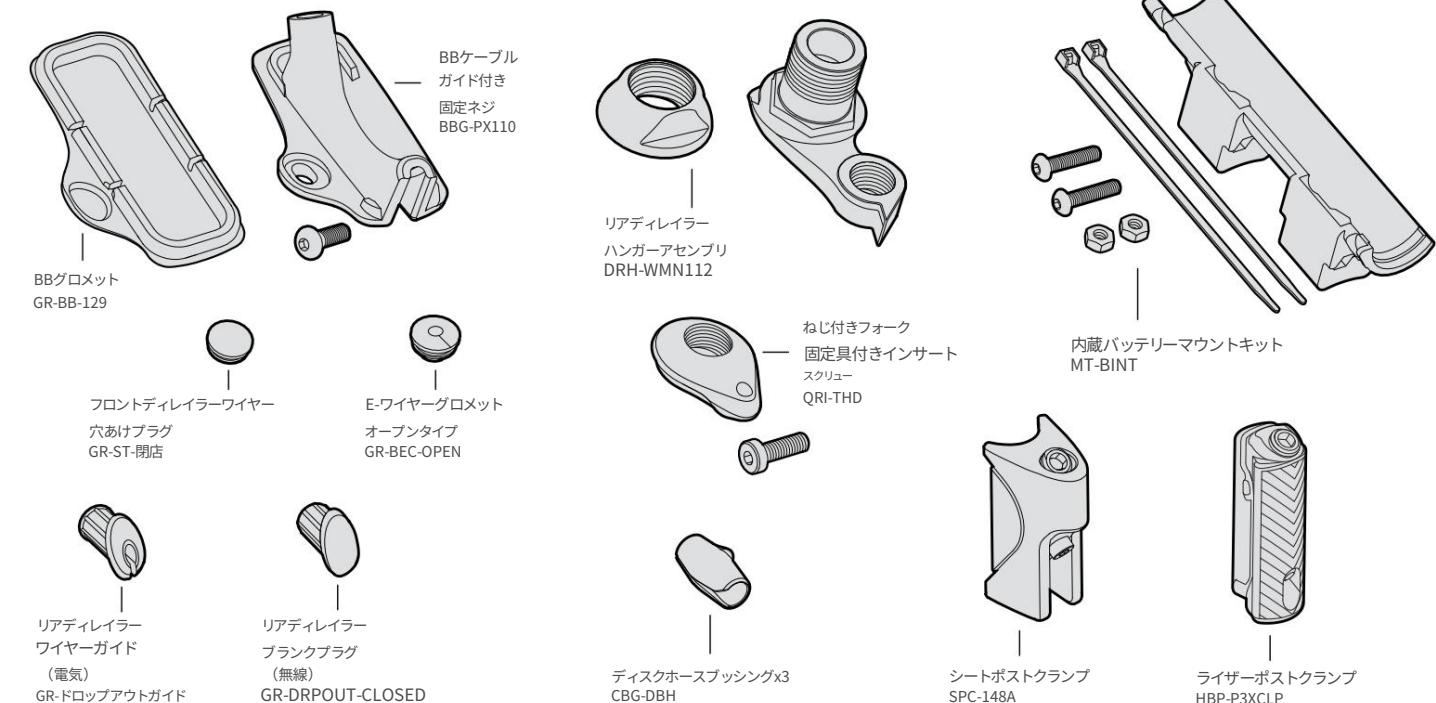
アイテムの説明	サーヴェロ部品番号
PXライザーポストクランプ HBP-P3XCLP	
スピードケースアセンブリ ASY-P5X-DTBOX	
SmartPak 600 錠剤付きトレイ	SB-SB02-TT
ステルスピックス 300 付き固定ネジ	SB-SB01-DT
EX10 ライザーポスト	HBP-EX10-ライザー
EX10 パッドマウント付き固定ネジ	HBP-EX10-PADMT
EX10 傾斜調整プレート（固定ネジ付き）	HBP-EX10-ADJPL
EX10 ボトルマウント	HBP-EX10-BOTMT
フロントディレイラーフィクス付マウント	FDM-0E0
フロントディレイラーマウントブランクプレート（1個）	FDM-CVR

アイテムの説明	サーヴェロ部品番号
SP21 カーボンシートポスト（ヘッド付き）	SP-SP21
P3X/P5Xシートポストプラグ	SPP-PX
PX用ST30システムカバー	HBP-HB10-CVR
HB10 ベースバー	HB-HB10
HB10 ベースバー取り付けプレート	HBP-HB10-BMP
ST30システム	ST-ST30
BBグロメットPX	GR-BB-129
ねじ付きフォークインサート QRI-THD	
ディレイラーハンガー付き取り付けナット	DRH-WMN112
サーヴェロ フロントエアロスルーアクスル	QRA-AERO-F
シートポストクランプ	SPC-148A

アイテムの説明	サーヴェロ部品番号
サーヴェロ リエアロスルーアクスル	QRA-AERO-R
ベースバーグリップ L/R	HBP-グリップス
EX11 Di2 ライザーポストプラグ	MT-EX11-DI2
EX11 ライザーポストレスト（固定ネジ付き）	HBP-EX11-レスト
EX11 ライザーポストパッド HBP-EX11-PADS	
ディスクブレーキホースガイド OE0	CBG-DBH
シートポストウォーターボトルマウント	MT-WB-SP
SP21/SP23サドルクランプスラグ	SPS-SP2123
ステムカバー/アクセス窓付きキャップ	HBP-MPXSCC
内蔵バッテリーマウント組み立て	MT-BINT

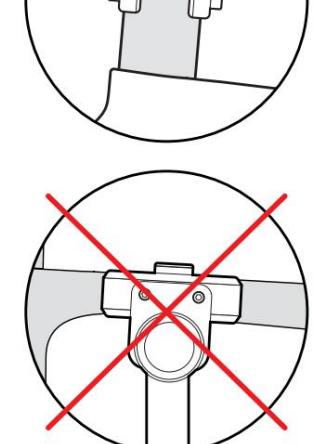
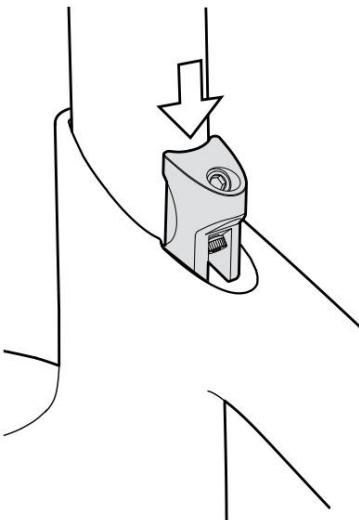
小さな部品

PX シリーズ フレームは、電子制御、機械制御、油圧制御に対応するように設計されており、方法やブランドに関係なく、すべてのシフトシステムをシームレスに統合できるように設計されています。そのためには、以下に示すパーツが必要です。自転車に取り付けられているグループセットによっては、すべてのパーツが使用されるわけではありません。



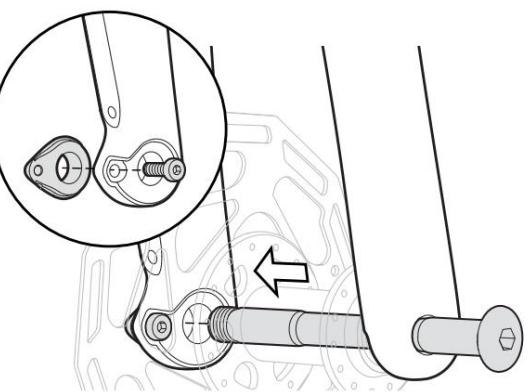
フレームとフォークの準備

1. フレームとシートポストの両方にカーボンアセンブリコンパウンドを塗布します。
2. シートポストクランプ (SPC-148A) をフレームに挿入し、トップチューブと同じ高さになるようにします。
3. 高さとトルクを最大 8Nm に調整します。

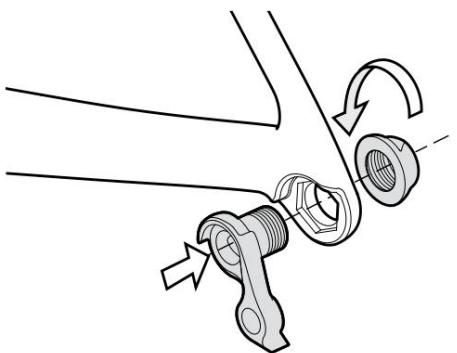


WARNING

固定されたシートポストのみを使用してフレームを保持します。
トップチューブをクランプするとフレームが損傷し、保証が無効になる場合があります。



1. 付属のM4固定ネジに軽くグリースを塗ります。
ねじ付きフォークインサート (QRI-THD) の取り付け
固定ネジは軽く締めるだけにしてください。
2. ホイールを取り付けない状態で車軸を取り付けます
フランジがフォークのドロップアウト面に接触し、フォークブレー
ドを圧縮しない程度まで締めます。
3. 固定ネジを3Nmに締めます。
4. 車軸を取り外し、ホイールを取り付けます。
車軸を再度取り付け、12~15Nmで締めます。
5. 車軸とホイールを取り外し、固定ネジを 3Nm に再度締め付けます。



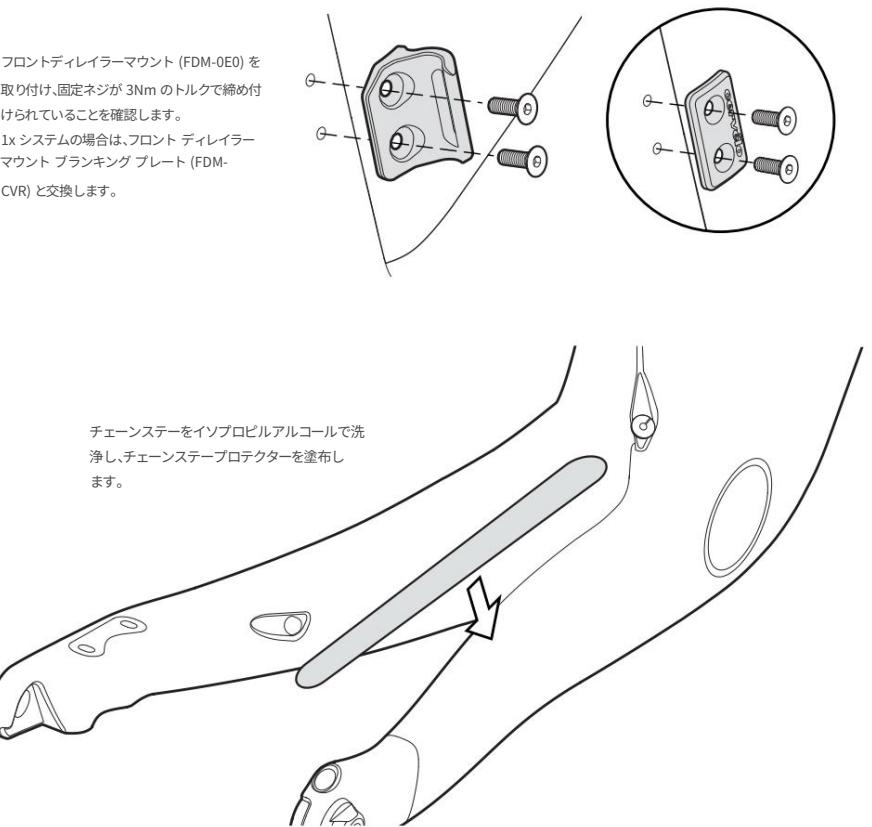
- リアディレイラーハンガー固定ナットに軽くグリースを塗布
し、リアディレイラーハンガー (DRH-WMN112) を指で締
め付けます。最終締め付けはリアホイールを取り付けた後に行
います。

WARNING

後輪を取り付けない状態でリアディレイラーハンガーアセンブ
リを本締めしないでください。
そうすると、ディレイラーの位置がずれてシフト不良が
発生する可能性があります。

フロントディレイラーマウント (FDM-0E0) を
取り付け、固定ネジが 3Nm のトルクで締め付
けられていることを確認します。
1x システムの場合は、フロント ディレイラ
マウント ブランディング プレート (FDM-
CVR) と交換します。

チェーンステーをイソプロピルアルコールで洗
浄し、チェーンステープロテクターを塗布し
ます。



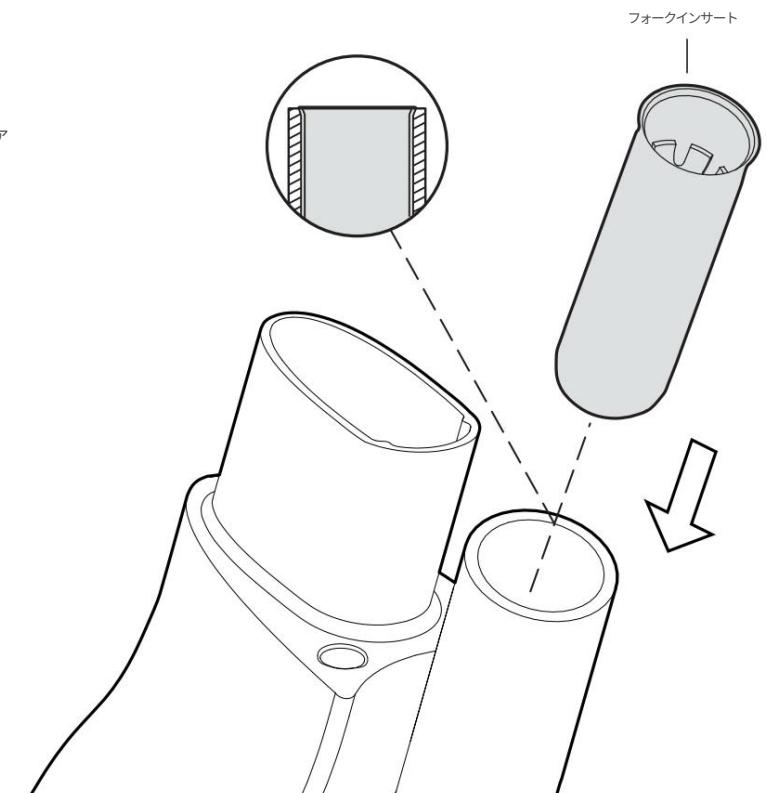
フォークの取り付け

注意:完全な取り付けを行う前に、ホースや制御ケーブルを取り付けない状態で試しに組み立て、ステアリング システムに慣れておくことをお勧めします。

1. フォーク インサートの接着剤用にフォークを準備するには、インサートに合うように円形ステアラー チューブの端の内側を慎重に研磨して斜面を作ります。
2. フォークインサートをドライフィットし、ステアラーの端と面一になっていることを確認します。
3. イソプロピルアルコールを使用して、ステアラーチューブと フォークインサートの外側。
4. 2成分エポキシを完全に混ぜ、木製のミキシング スティックを使用してフォーク インサートの外側表面に塗布します。
5. フォークインサートをステアラーに差し込み、ゆっくりと回しながら、広がった端はステアラーの上部と面一になります。
6. ステアラーの外側の表面から余分な接着剤を拭き取ります。チューブをイソプロピルアルコールで拭きます。
7. フォークを脇に置き、完全に硬化するまでそのまま放置します。
期間。

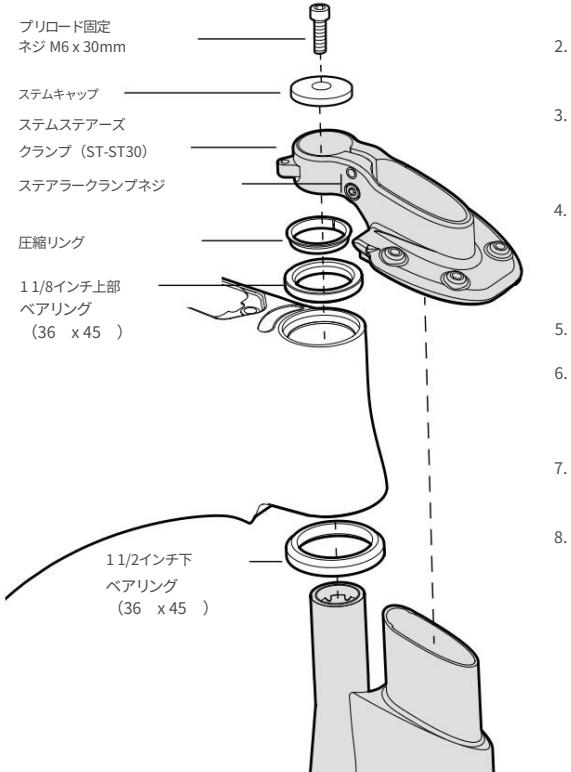
⚠️ WARNING

完全な硬化期間が完了する前に、フォークを自転車に取り付けるようしないでください。



フォークインサート

注:この図は組み立ての参考用です。組み立て完了時には、ホースと制御ケーブルがそのまま残ります。



プリロード固定
ネジ M6 x 30mm

ステムキャップ

ステムステアーズ

クランプ (ST-ST30)

ステアラーラークランプネジ

圧縮リング

1 1/8インチ上部
ペアリング
(36 x 45)

1 1/2インチ下
ペアリング
(36 x 45)

1. ステムステアラーラークランプとヘッドセットのコンポーネントを点検し、ステアラーチューブを切断したり損傷したりする可能性のある鋭利なエッジや粗いエッジが表面にないことを確認してください。粗いエッジが検出された場合は、作業を進める前にコンポーネントを修理（鋭利なエッジを除去）または交換してください。

2. ヘッドセットの上部と下部のペアリングをフレームに押し込み、フォークをヘッドに插入します。
チューブ。

3. 圧縮リングをステアラーに差し込み、ステアラーの上部に完全に収まるまで押し下げます。
ヘッドセット上部ペアリング。圧縮リングの分割部は、ステアラーの左側または右側に向ける必要があります。決して前方または後方に向けないでください。

4. ステムステアラーラークランプを図のようにフォークステアラーに差し込みます。ステムステアラーラークランプはフォークステアラーと外部ステアラーの両方にしっかりと固定されている必要があります。フォークステアラーにはグリスを使用しないでください。ステムステアラーラークランプをしっかりと固定するには、Tacx Carbon Assembly Compound™または同等の摩擦ベーストの使用をお勧めします。

5. プリロード固定ネジとステアラーラークランプネジのネジ山に軽くグリスを塗ります。

6. ステムキャップをステムステアラーラークランプの上に置き、グリスを塗ったM6ボルトをキャップに通してスターナットに噛み合わせます。ヘッドセットの遊びを完全になくし、フォークが自由に回転することを確認するまでボルトを締めます。

7. トルクレンチを使用して、グリスを塗った2本のステアラーラークランプネジをステアラーに締めます。
最大5Nm。

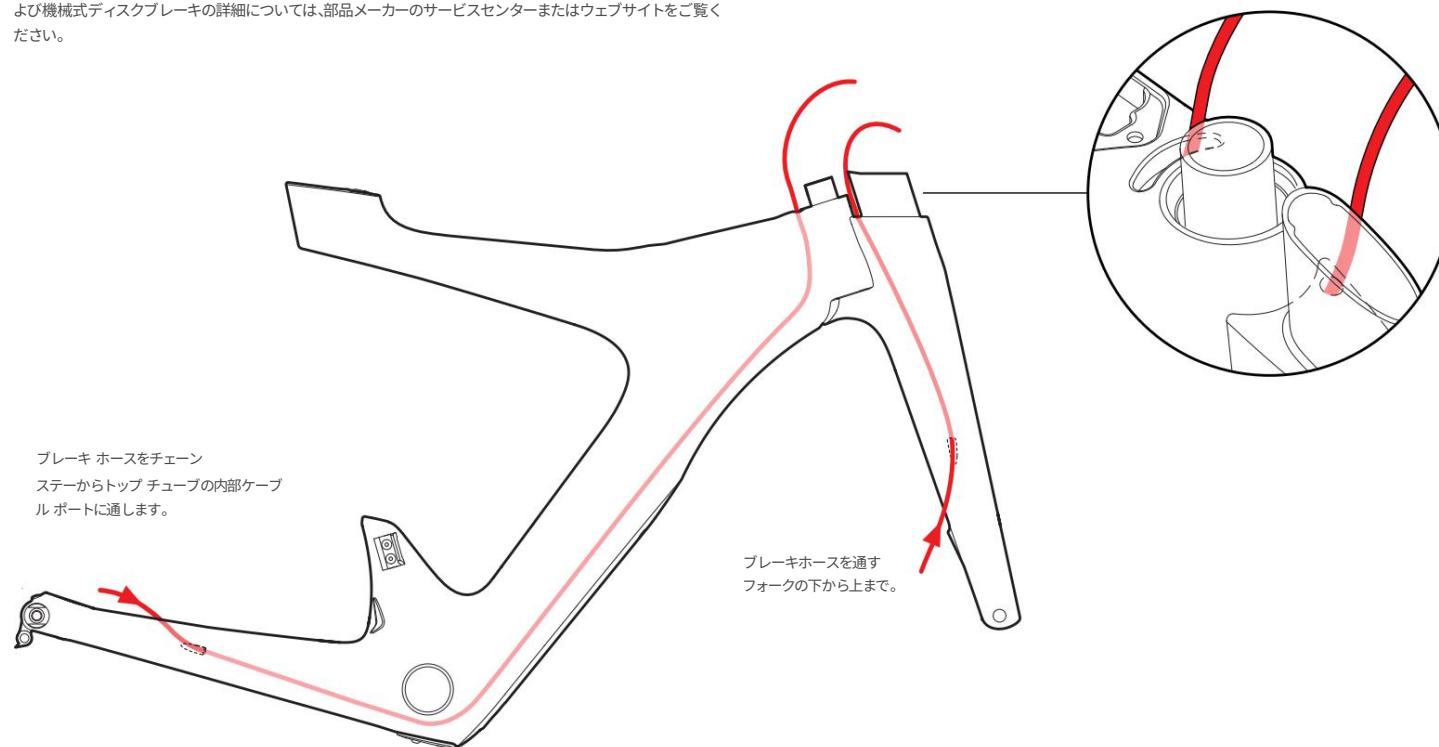
8. 最終チェックとして、フォークがヘッドチューブ内で遊びや引っ掛かりがなく、スムーズに回転することを確認してください。問題が見つかった場合は、ボルトを緩めて手順6から7)を再度実行してください。

⚠️ WARNING

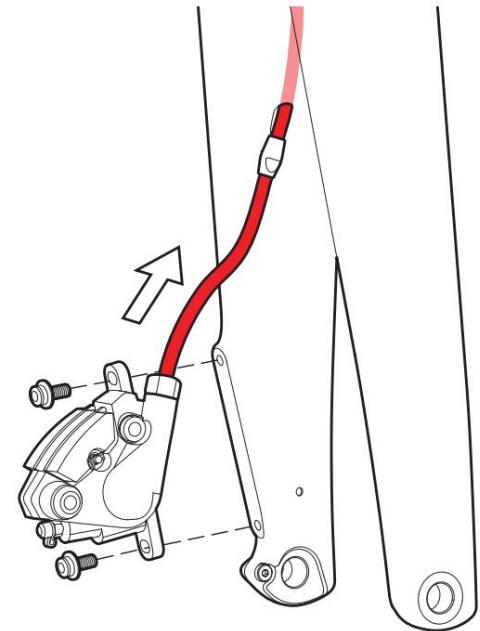
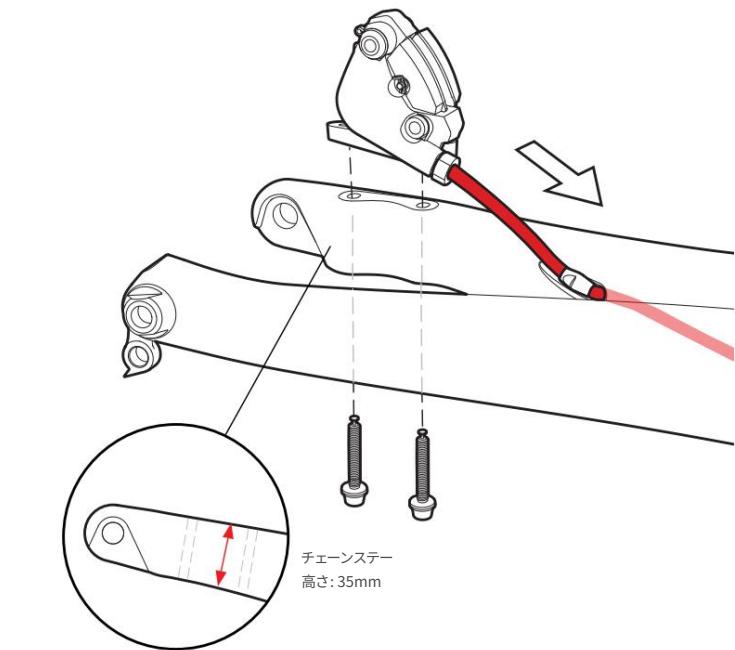
ステムの最大トルク仕様を超えないようにしてください。自転車の留め具（ナット、ボルト、ネジなど）の適切な締め付け力は非常に重要です。締め付け力が弱すぎると、留め具がしっかりと固定されない可能性があります。締め付け力が強すぎると、留め具のネジ山が潰れたり、伸びたり、変形したり、破損したりする可能性があります。いずれにしても、締め付け力が適切でないと部品が破損し、コントロールを失い転倒につながる可能性があります。

ブレーキハウジングのルーティング

これらの配線図は、メーカーの取り付け手順を補足する目的でのみ提供されています。油圧式ディスクブレーキおよび機械式ディスクブレーキの詳細については、部品メーカーのサービスセンターまたはウェブサイトをご覗くください。



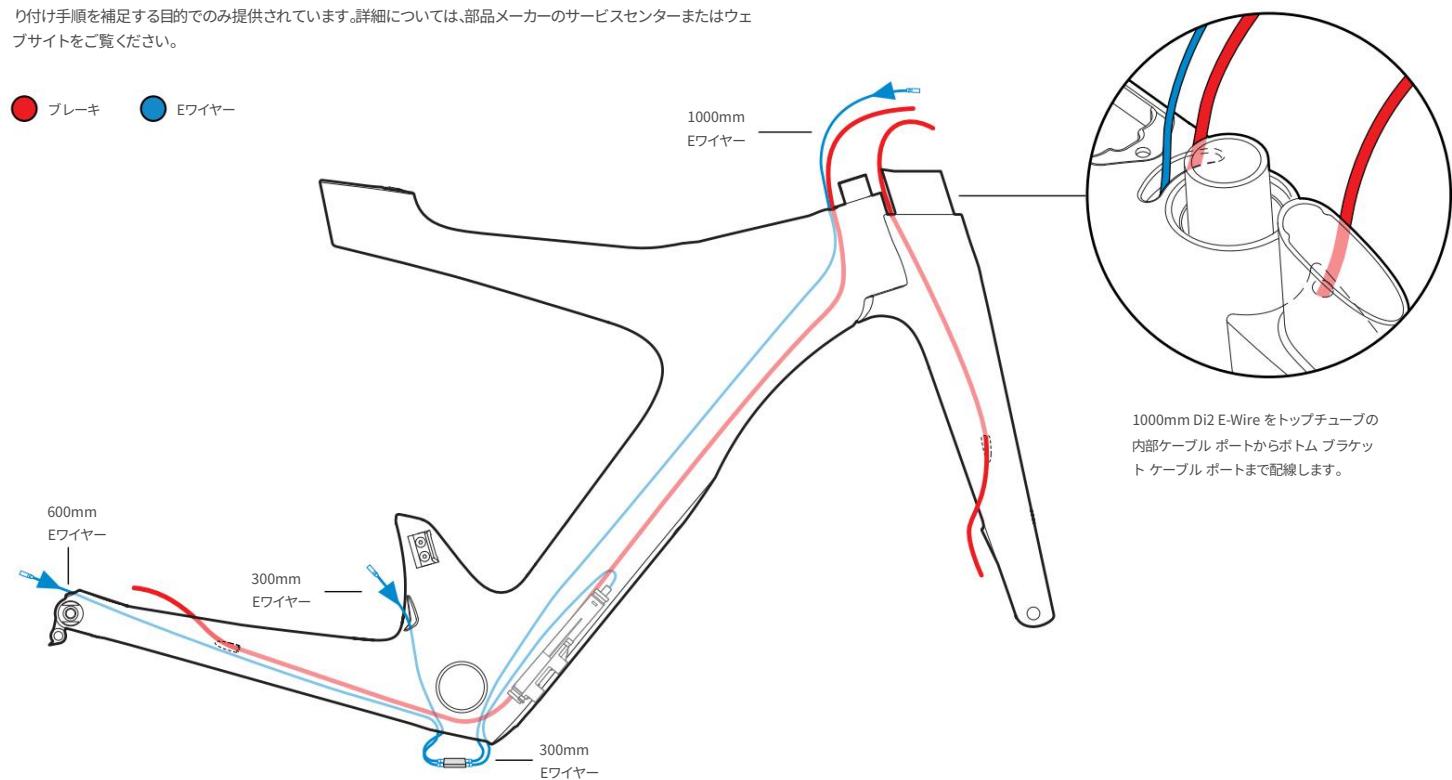
ディスクホースブッシング（CBG-DBH）を使用して、油圧ブレーキホースまたは機械式ブレーキハウジングをフレームとフォークに通します。キャリパーはメーカーの指示に従って取り付け、調整してください。



電線配線

ブレーキホースを取り付けた後に、電気配線と接続箇所を設置することをお勧めします。これらの配線図は、メーカーの取り付け手順を補足する目的でのみ提供されています。詳細については、部品メーカーのサービスセンターまたはウェブサイトをご覧ください。

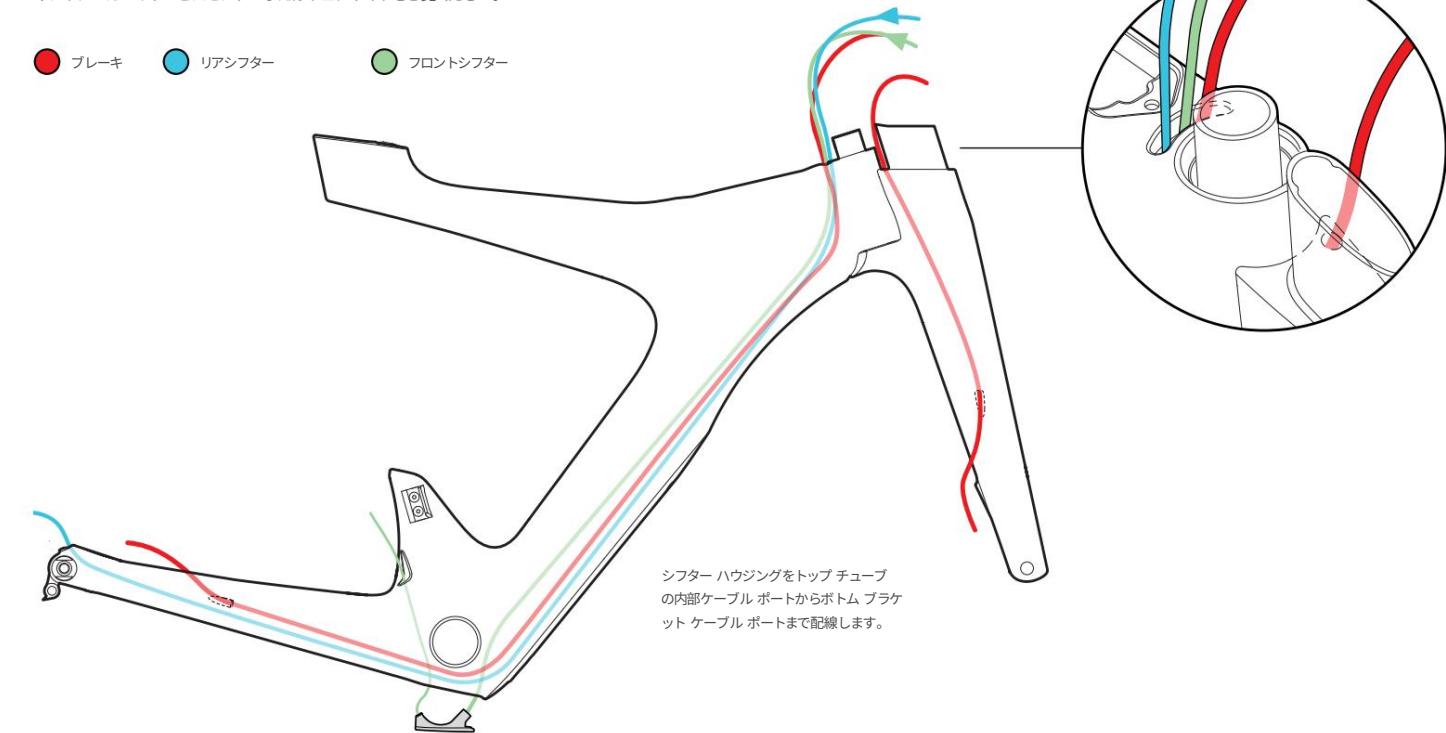
● ブレーキ ● Eワイヤー



機械ケーブル配線

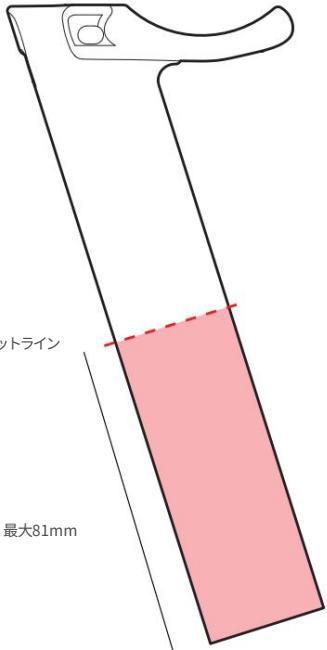
ブレーキホースを取り付けた後、フロントディレイラーケーブルとリアディレイラーケーブルを取り付けることをお勧めします。これらの配線図は、メーカーの取り付け手順を補足することを目的としています。詳細については、コンポーネントメーカーのサービスセンターまたはウェブサイトをご覧ください。

● ブレーキ ● リアシフター ● フロントシフター



ライザーポストの切断手順

可能な限り低いスタックを実現するには、トリミングが必要になる場合があります。ライザーポスト。切断したライザーポストを使用する場合は、フレーム内に最低70mmの余裕を持たせてください。



- 薄い色のグリースペンシルを使って、ライザーポストの切断位置を正確にマークします。フレームごとの正確な番号については、以下の表を参照してください。
- ライザーポストをパークツールSG-7.2ソーガイド（または同等品）に挿入し、ツール内のブレードガイドを通してカットオフラインがはっきりと見えることを確認します。
- カーボンを切断するために特別に設計されたブレードを使用して、システムステアラーの切断に進みます（Park Tool の指示に従ってください）。
- 切り口をやすりで丁寧に削り、粗い部分を取り除きます。

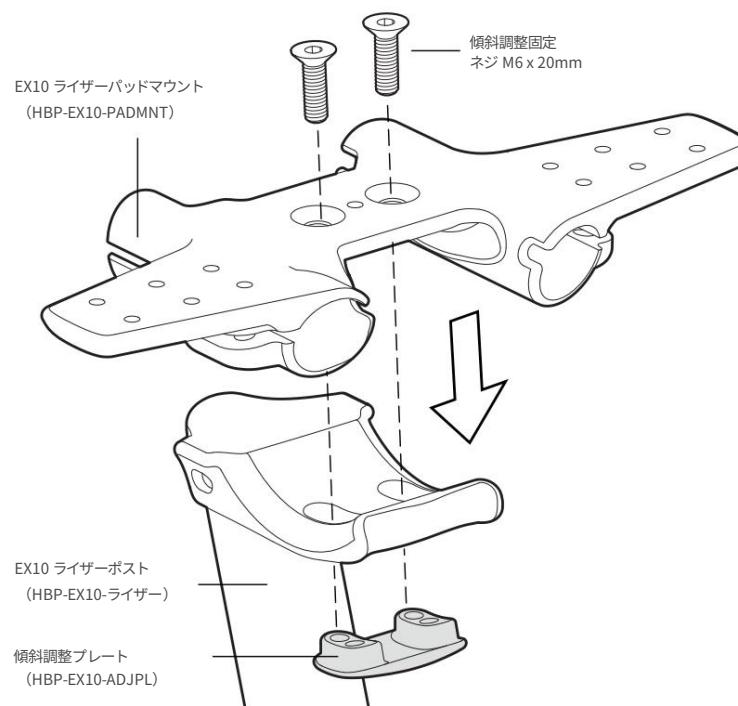
フレームサイズ	トリム量 最下位スタック (ライザープラグ付き)
S	81mm
M	61mm
L	33mm
XL	3mm

WARNING

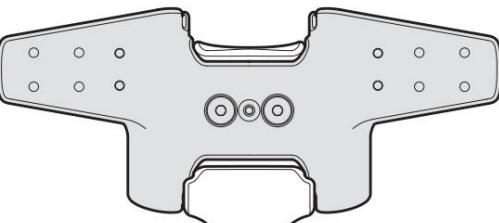
トリミングが必要な場合、最終的な長さはライザーポストがフレーム内に最低70mm残るようにする必要があります。この要件を満たさない場合、保証の対象外となるフレームの損傷、またはライダーの重傷につながる可能性があります。

ライザーポストパッドマウントの取り付け

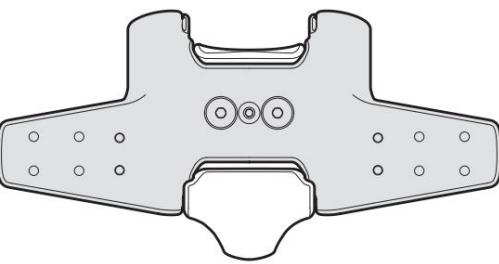
軽くグリースを塗布した2本のM6固定ネジを使用して、ライザーパッドマウントとライザーポストをチルト調整プレートに取り付けます。トルクは6Nmです。



ライザーパッドマウントは次の2つの位置に取り付けることができます。



フォワードポジション

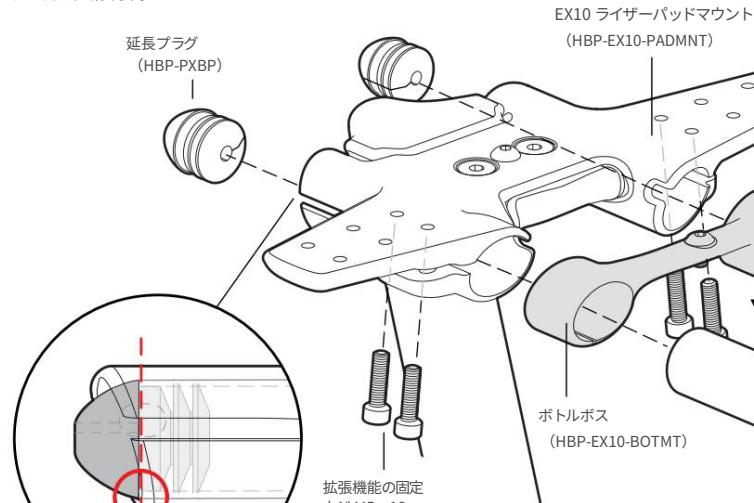


セットバックポジション

延長アセンブリ

注:この図は組み立ての参考用です。組み立て完了時には、ホースと制御ケーブルが付属します。

拡張機能をインストールして調整します。
3Nmのトルクで締めます。

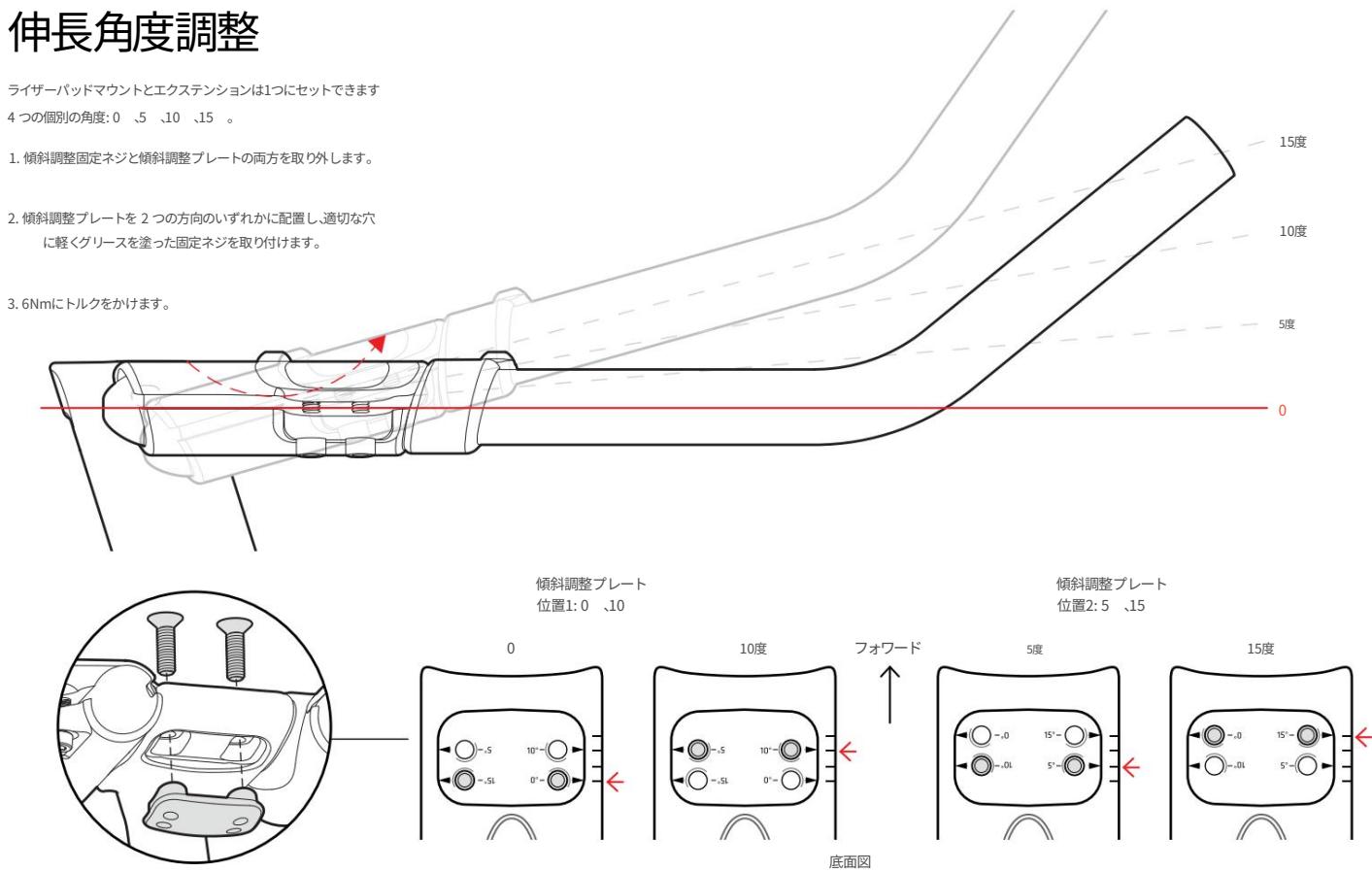


内部 Di2 ルーティングの場合、拡張機能は下端のライヤー パッド マウントと同じ高さにする必要があります。

伸長角度調整

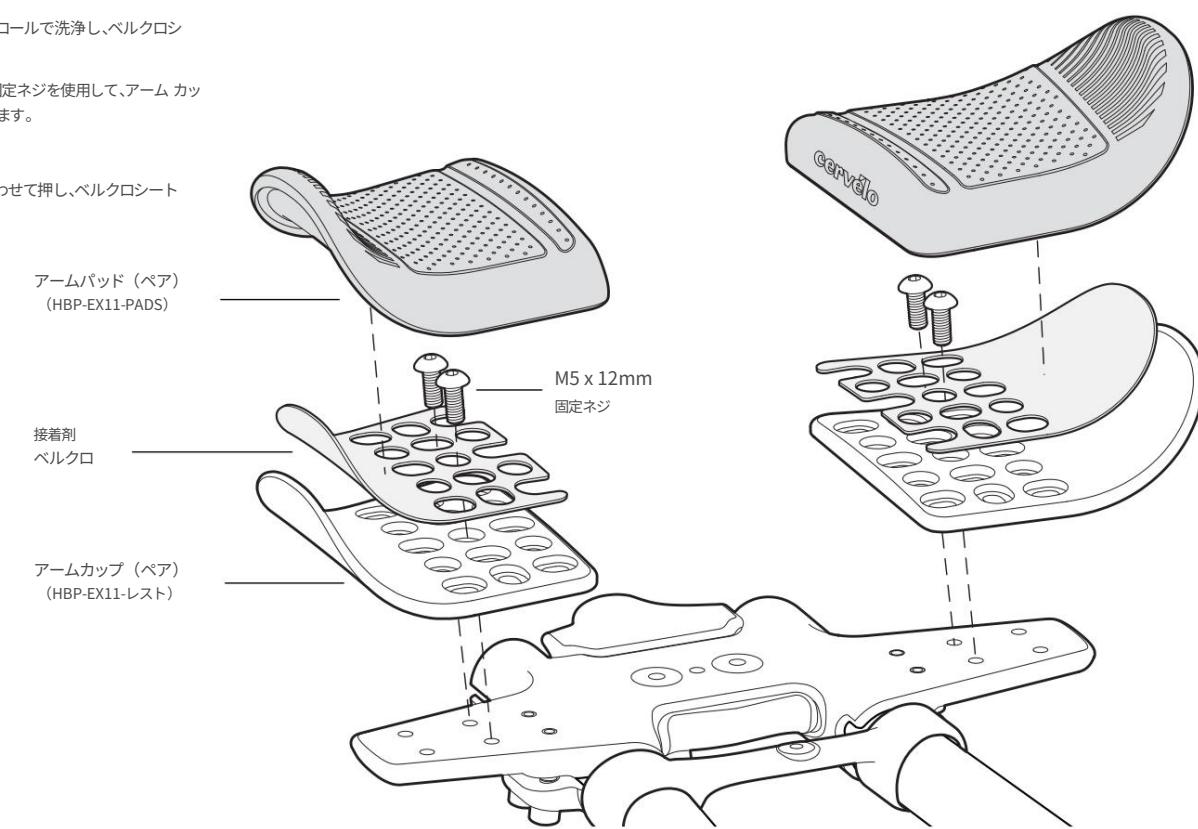
ライヤーパッドマウントとエクステンションは1つにセットできます
4つの個別の角度: 0°, 5°, 10°, 15°。

1. 傾斜調整固定ネジと傾斜調整プレートの両方を取り外します。
2. 傾斜調整プレートを2つの方向のいずれかに配置し、適切な穴に軽くグリースを塗った固定ネジを取り付けます。
3. 6Nmにトルクをかけます。

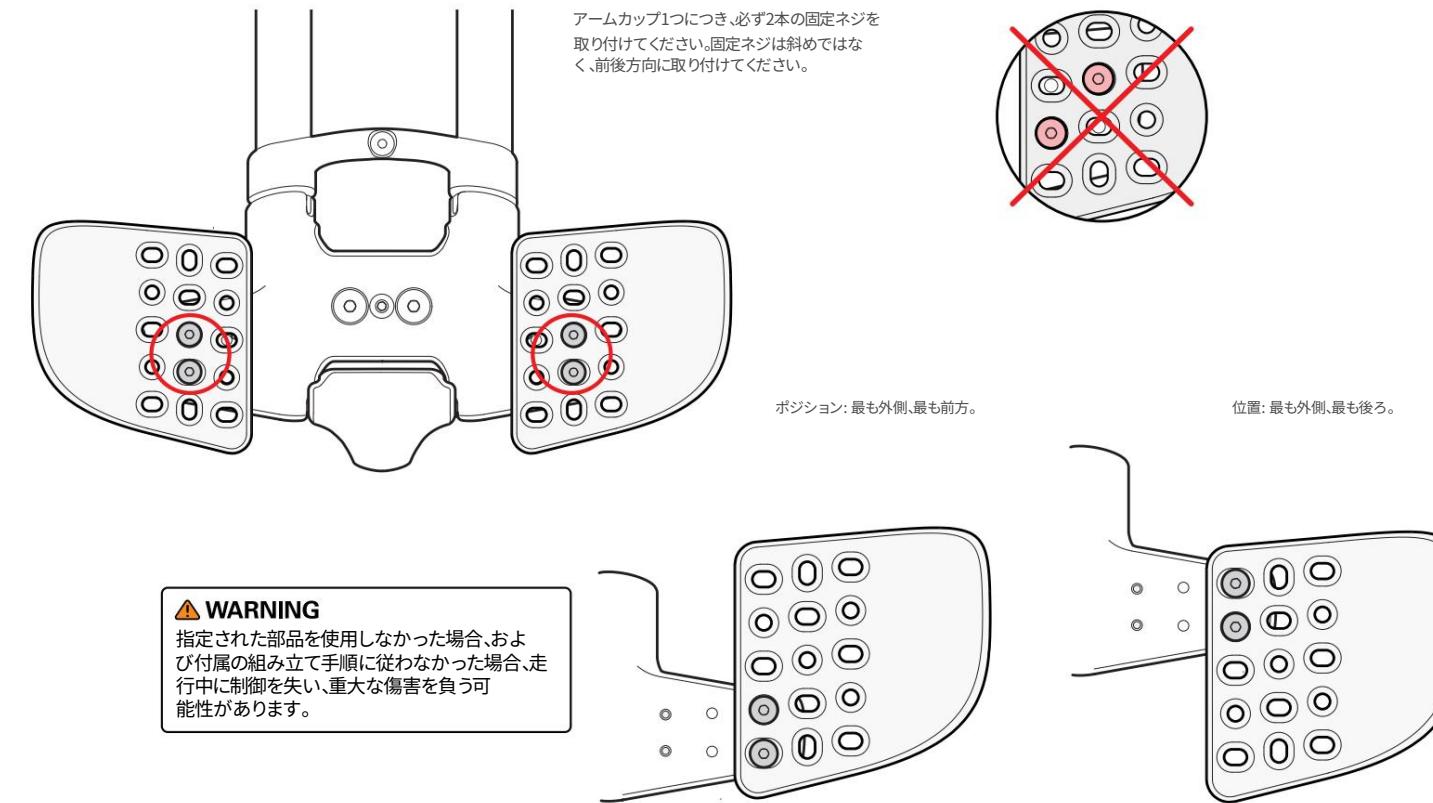


アームカップとパッドの取り付け

- アームカップをイソプロピルアルコールで洗浄し、ベルクロシートを貼ります。
- 軽くグリースを塗った2本のM5固定ネジを使用して、アームカップをライザーポストに取り付けます。
- 固定ネジを4Nmに締めます。
- アームパッドをアームカップに合わせて押し、ベルクロシートに固定します。



アームカップの位置

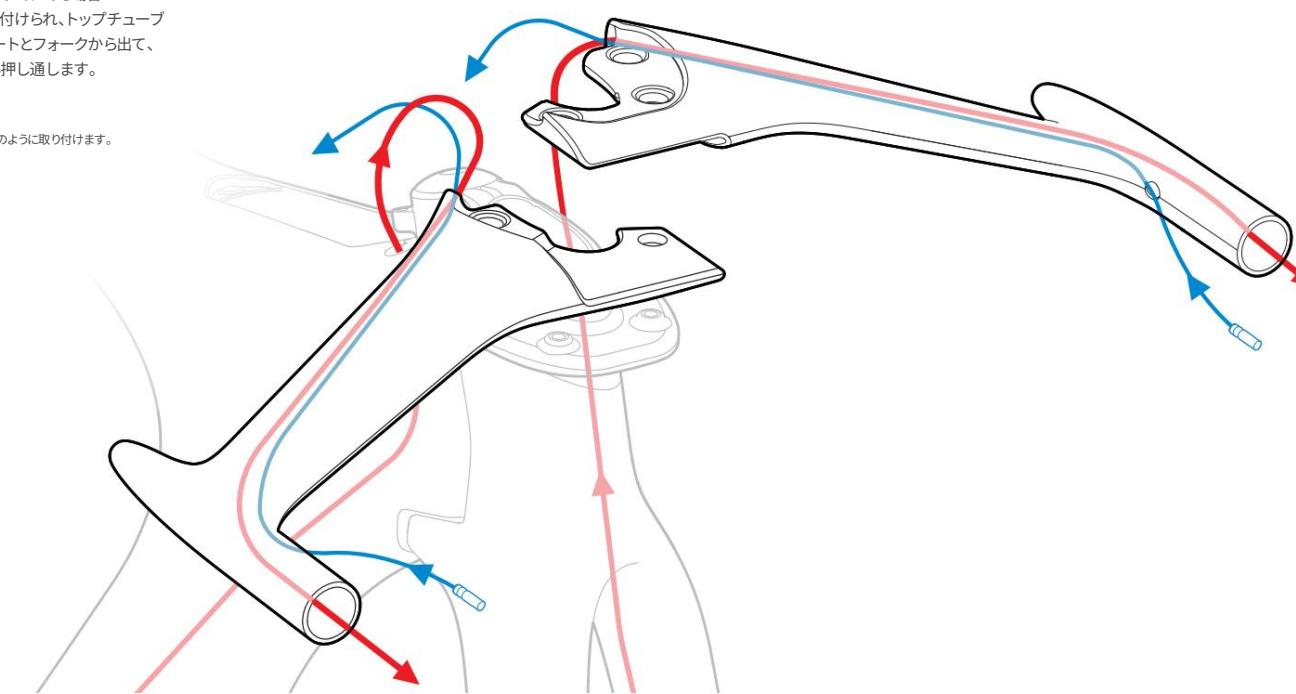


分割ベースバー配線

1. 電気ケーブルを通す
ベースバーの両側を正面から見たところ。

2. ブレーキラインがすでにある場合
フレームに取り付けられ、トップチューブ
のケーブルポートとフォークから出て、
バーの後ろから押し通します。

3. ブレーキレバーを以下のように取り付けます。
製造元の指示。



スプリットベースバーの取り付け

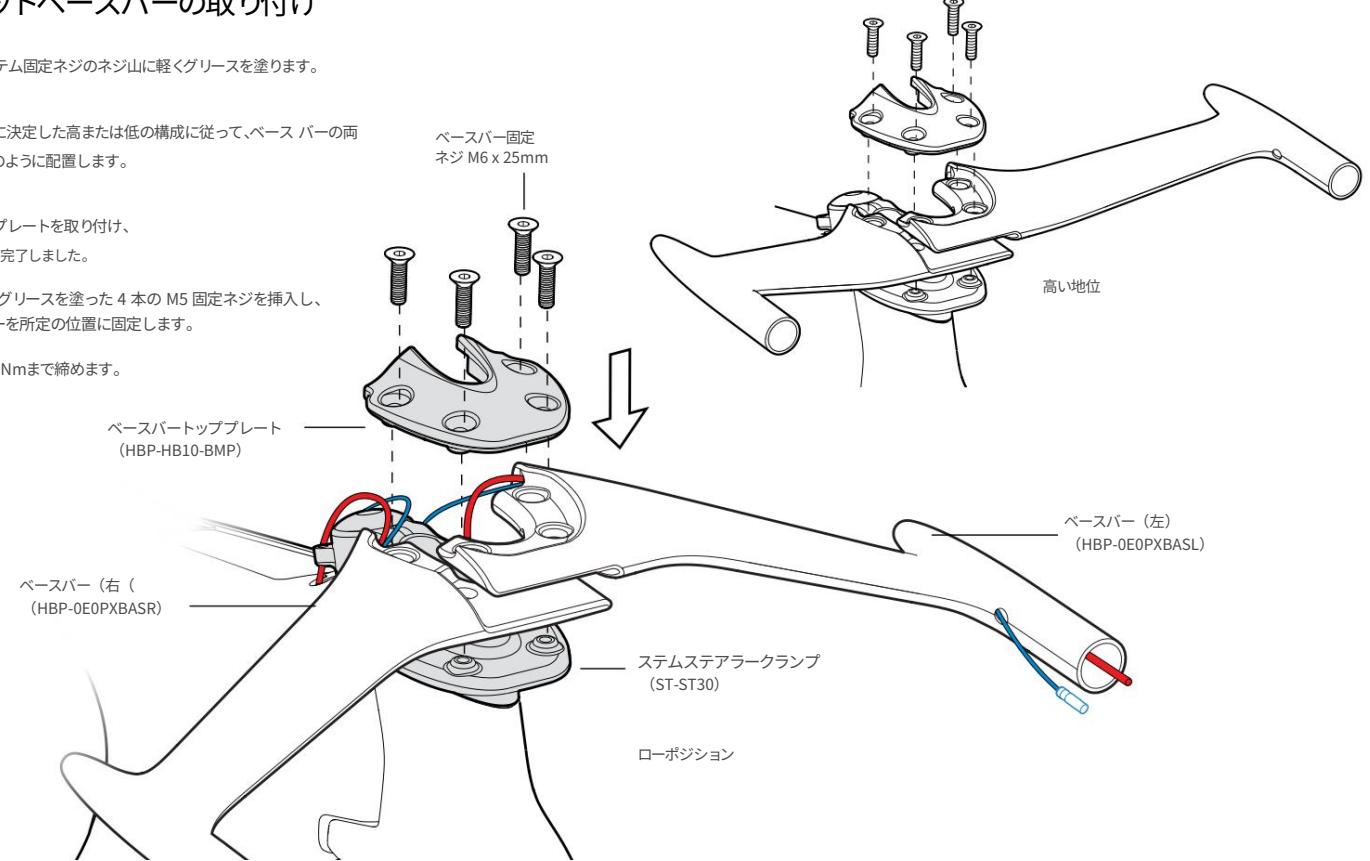
1. 4本のM5ステム固定ネジのネジ山に軽くグリースを塗ります。

2. 取り付け時に決定した高または低の構成に従って、ベースバーの両半分を図のように配置します。

3. ベースバープレートを取り付け、
組み立てが完了しました。

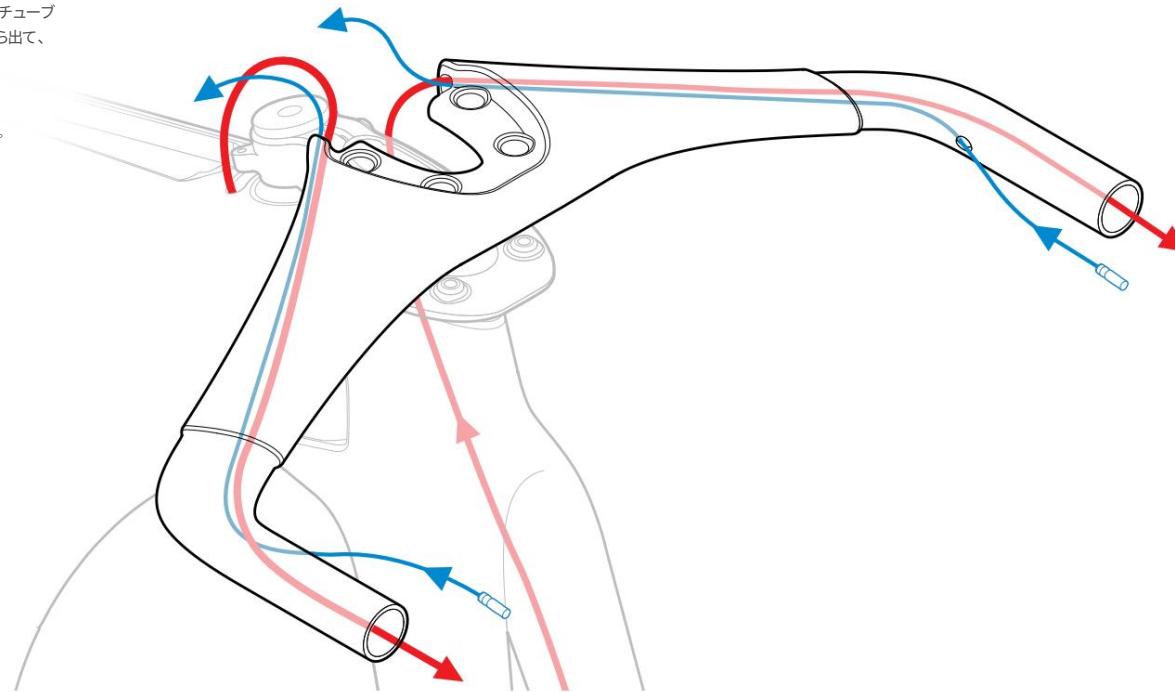
4. 図のように、グリースを塗った4本のM5固定ネジを挿入し、
ベースバーを所定の位置に固定します。

5. 最大トルク6Nmまで締めます。



ワンピースベースバー配線

- 電気ケーブルを通す
ベースバーの両側を正面から見たところ。



- ブレーキラインがすでにある場合
フレームに取り付けられ、トップチューブ
のケーブルポートとフォークから出て、
バーの後ろから押し通します。

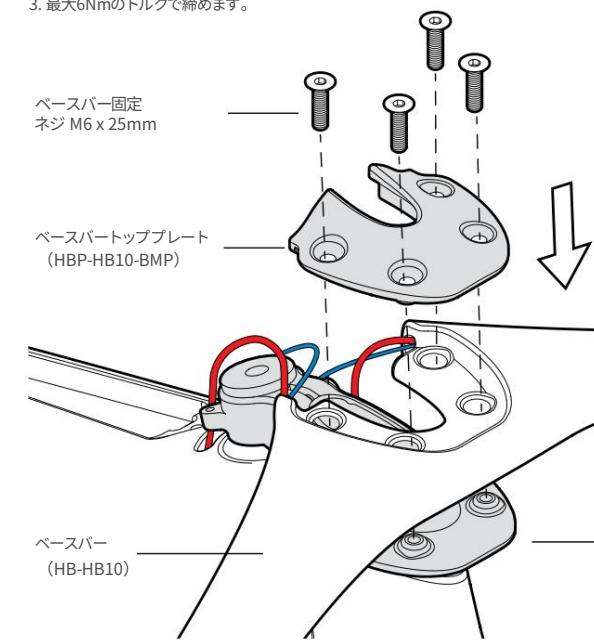
- ブレーキレバーを取り付けます。
製造元の指示。

ワンピースベースバーの取り付け

- 4つのM6ネジのネジ山に軽くグリースを塗ります。
ベースバー固定ネジ

- ベースバートッププレートを取り付け、
図に示すように、グリースを塗った4本のM6固定ネジを使用して、ベース
バーを所定の位置に固定します。

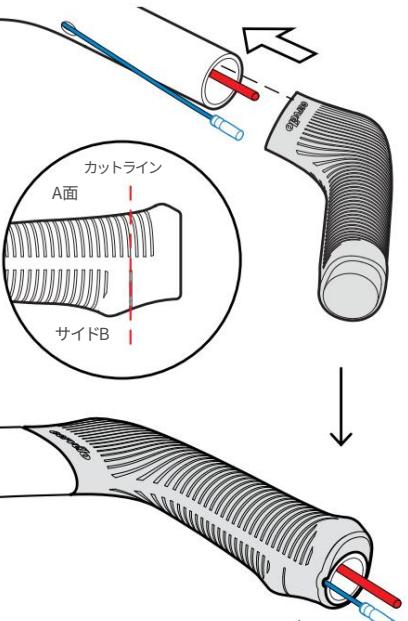
- 最大6Nmのトルクで締めます。



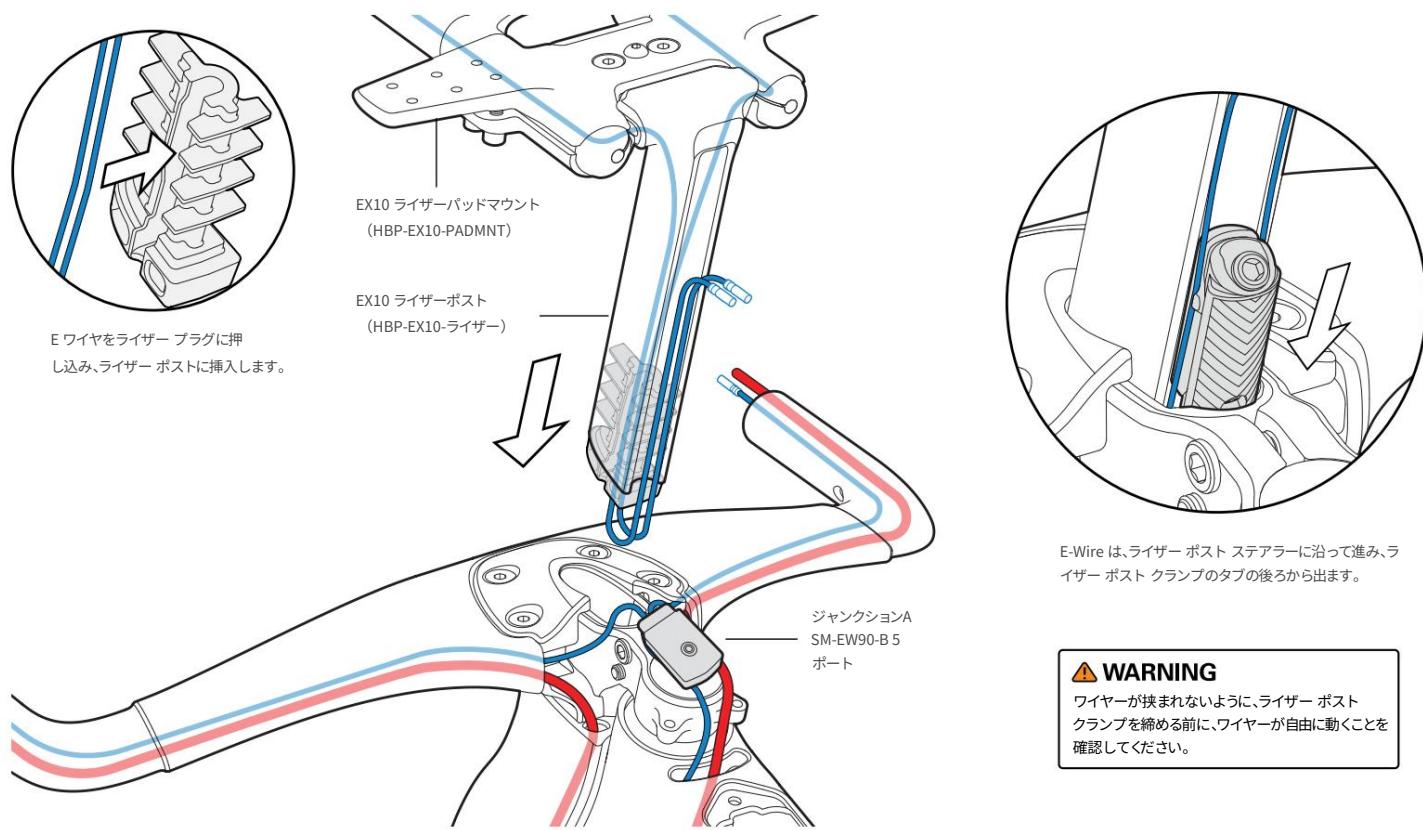
HB10 ベースバーは、右側または左側に取り付けられ
るよう設計されたグリップを使用しており、ニーズに
合わせてトリミングできます。

推奨インストール:

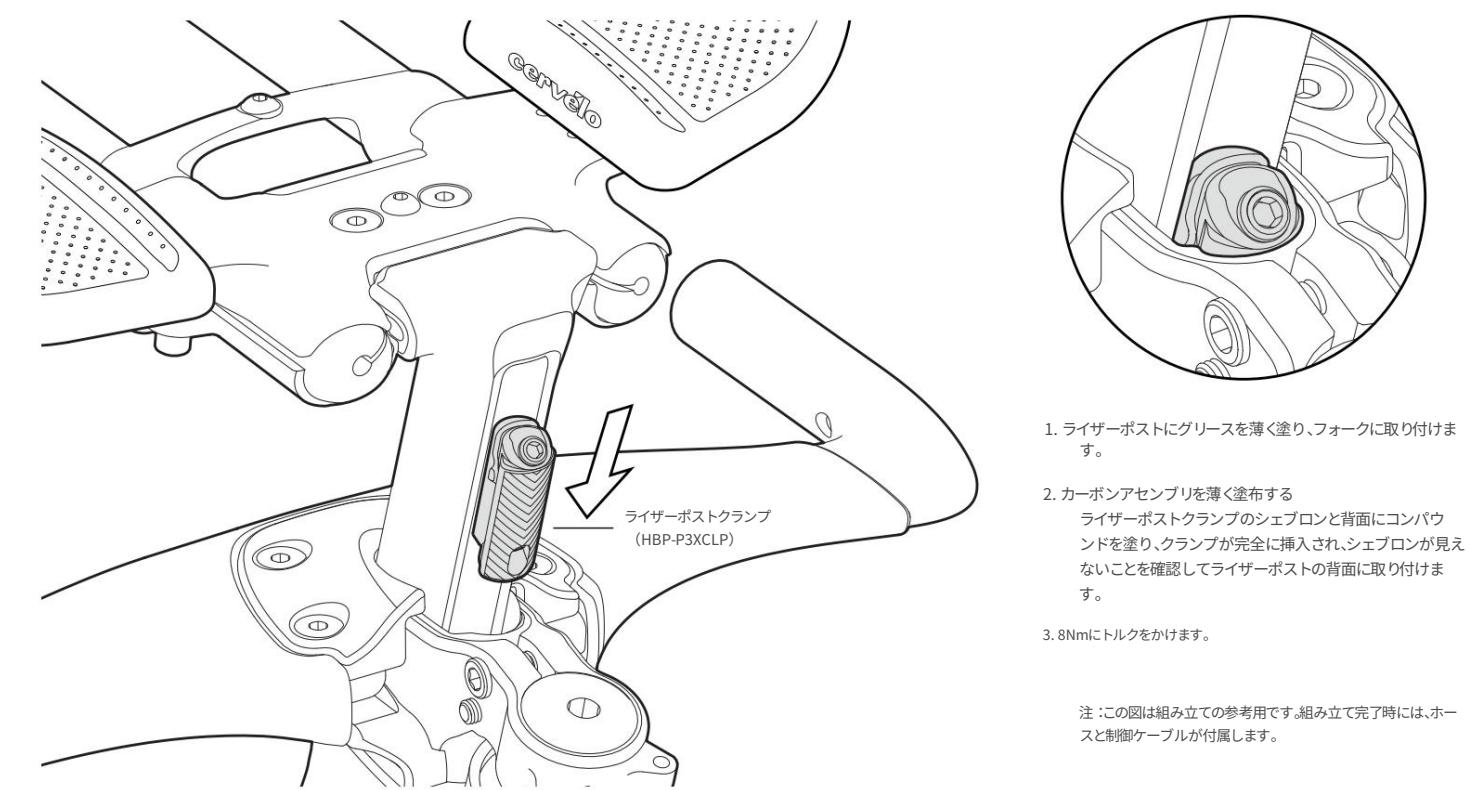
- 最も長いリーチオプションの場合は、サイドAを上
に向けてグリップを取り付けます。
- リーチを20 mm短くするには、グリップを先端から
20 mm後ろに切り取り、サイドBを上に向けて
グリップを取り付けます。



ライザーポスト配線

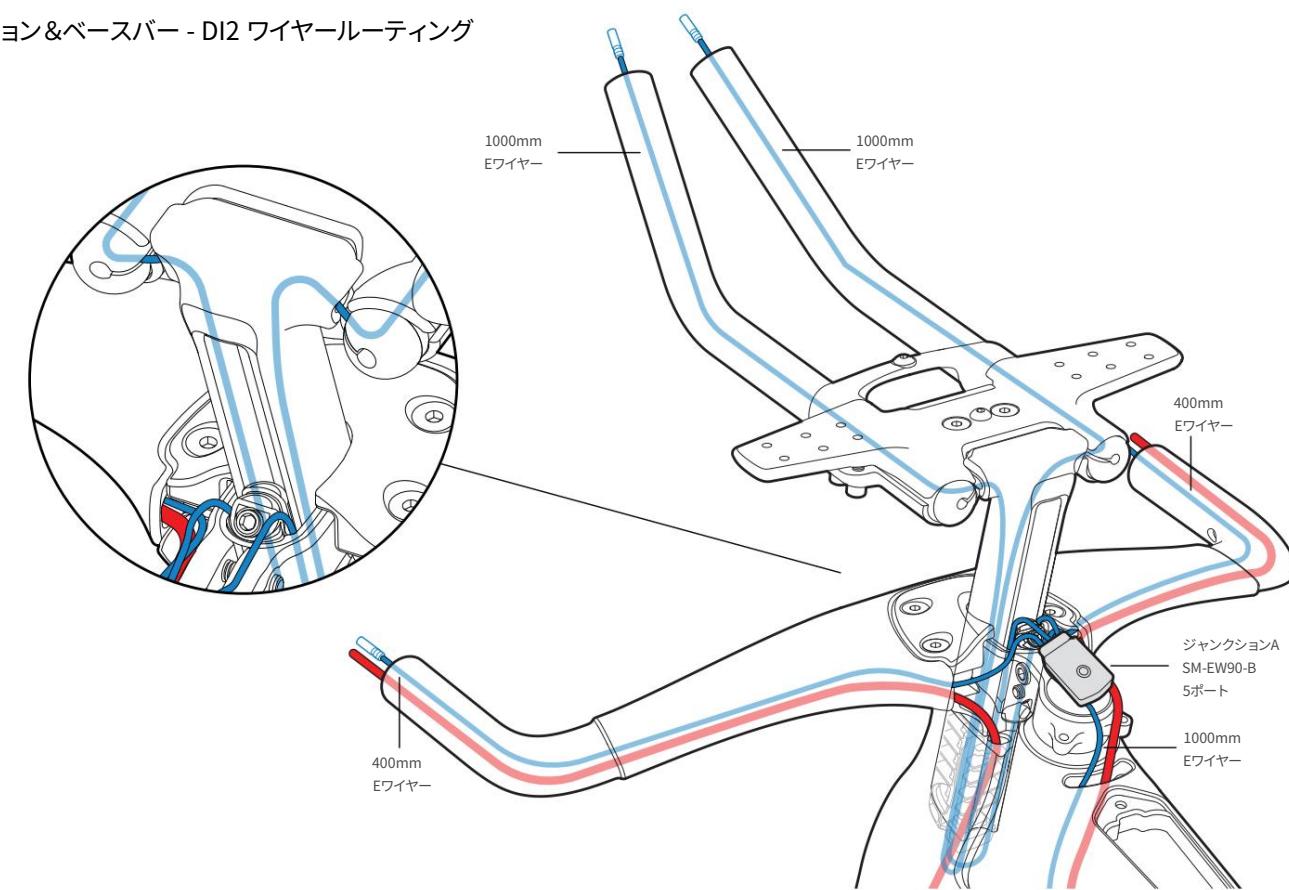


ライザーポストアセンブリの取り付け



エクステンション&ベースバー - DI2 ワイヤールーティング

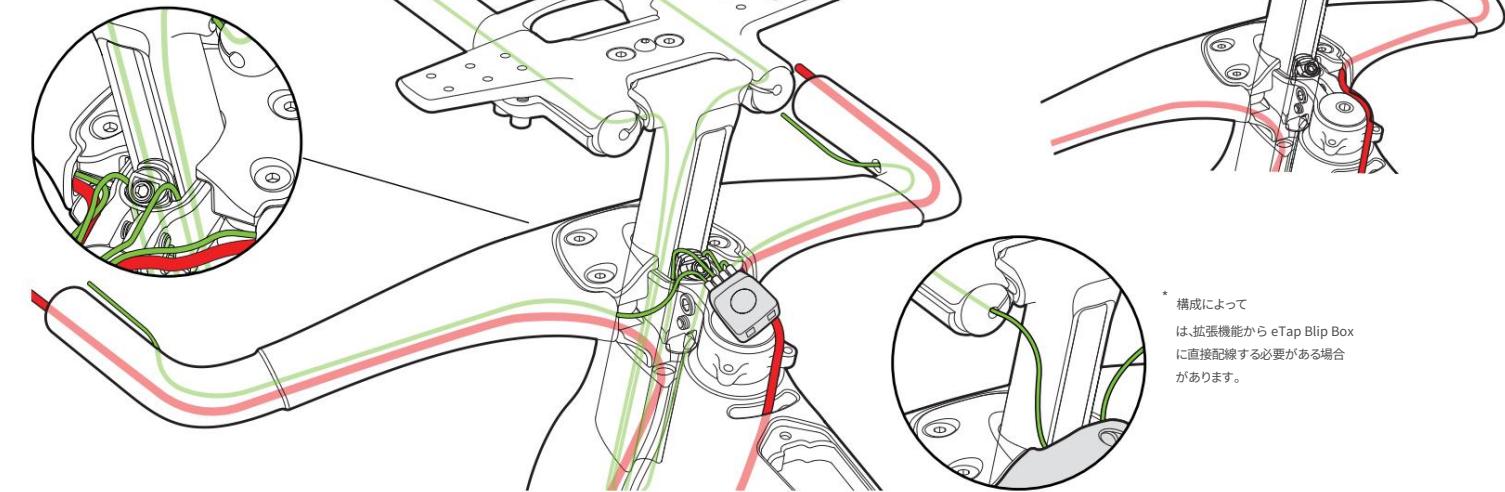
- ブレーキ
- Eワイヤー



延長バーとベースバー - eTap配線配線

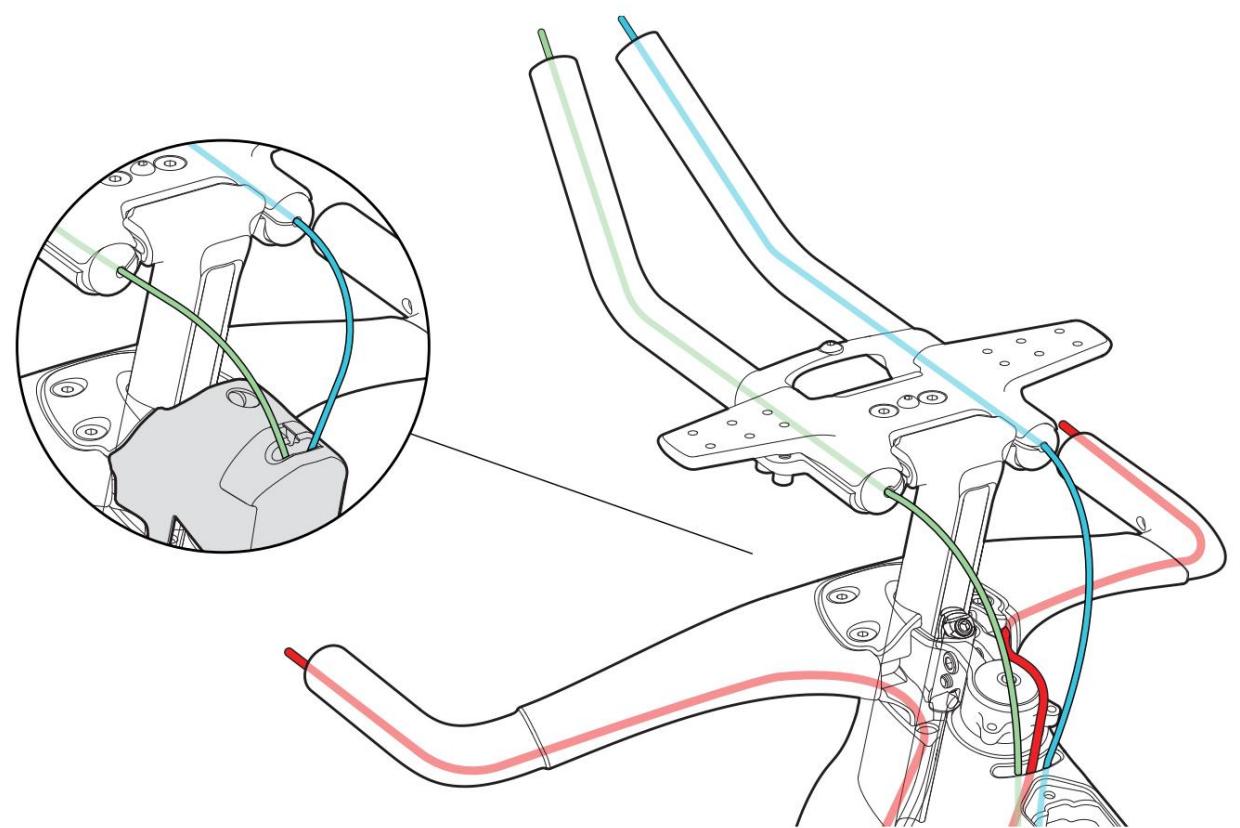
- ブレーキ
- eTap ブリッップワイヤー

ブリッップワイヤーはライザーポストステアラーに沿って進み、ライザーポスト クランプ* のタブの後ろから出ます。



延長バーとベースバー - 機械ケーブル配線

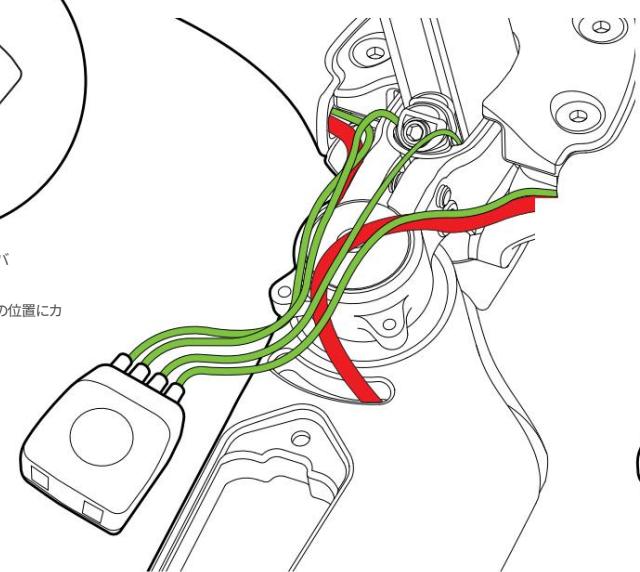
- ブレーキ
- リアシフター
- フロントシフター



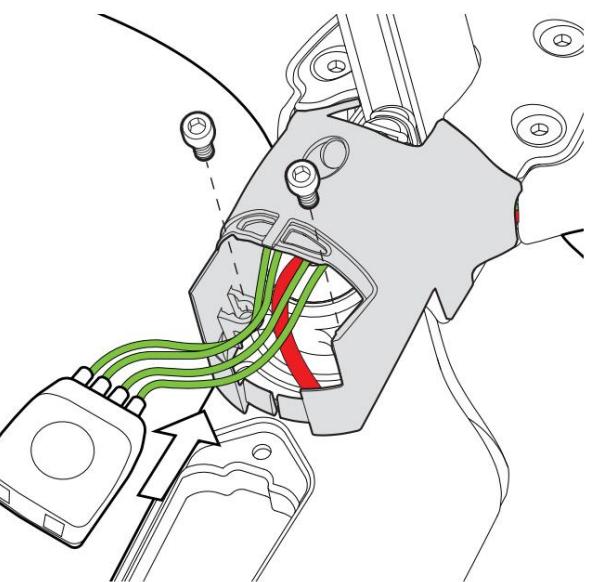
ステムカバーの取り付け

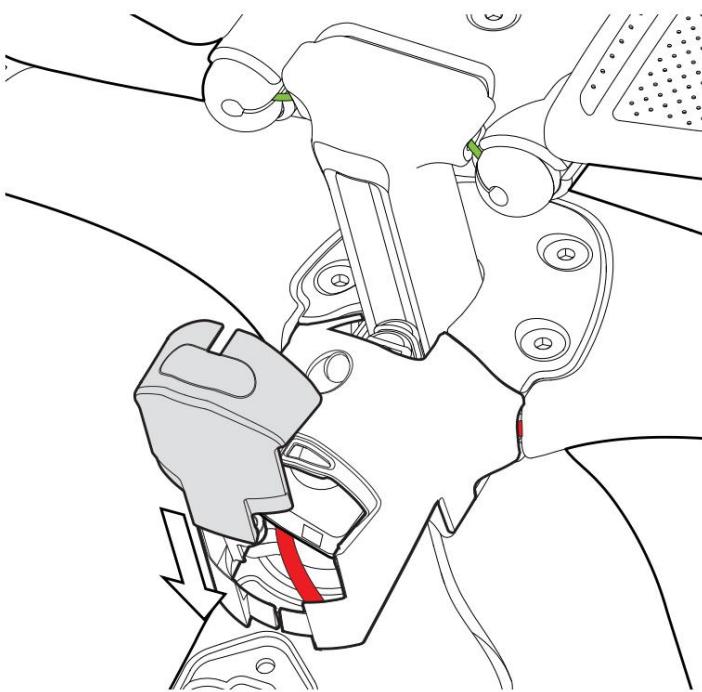


Di2 / eTap の場合は、ステム カバー
ー アクセス キャップ (HBP-
PXCVRW) を、ウインドウを所定の位置に力
チッとはめて組み立てます。

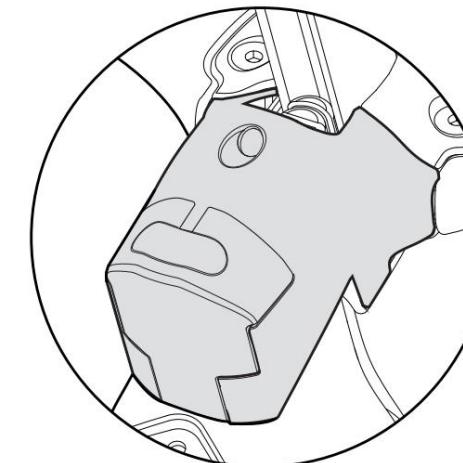


ステムカバー (HBP-HB10-CVR) を、軽くグリースを塗った2本のM4ボルトで
ステムに固定します。トルクは1Nmです。



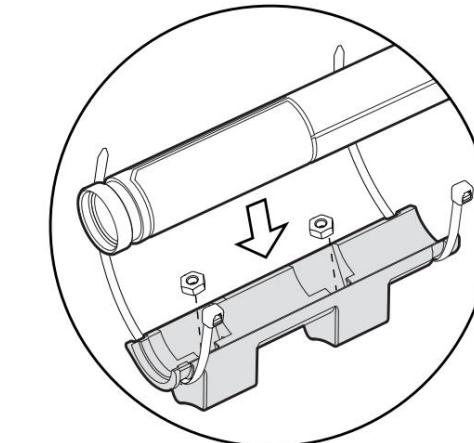


余分なワイヤーとDi2ジャンクションAまたはSRAMブリッピップボックスをステムカバー内に取り付けます。アクセスキップを下にスライドさせてカチッとはめ込みます。

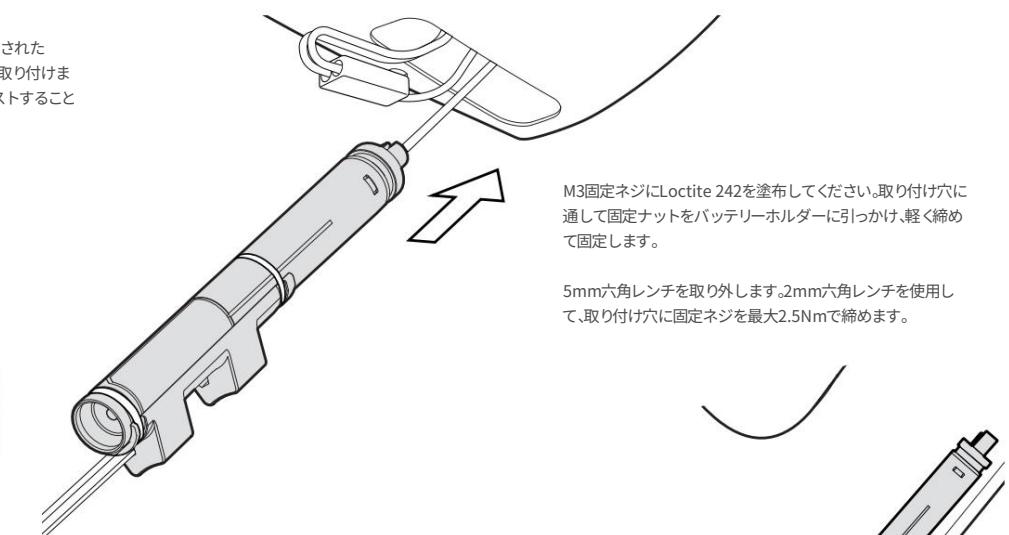


DI2バッテリーの取り付け

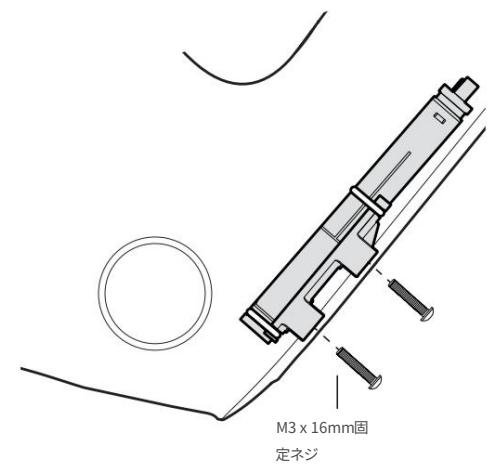
Shimano Di2システムのバッテリーは、このフレームに合わせて設計された内蔵バッテリーマウント (MT-BINT)を使用してダウンチューブ内に取り付けます。この場所は密閉されているため、最終取り付け前にシステムをテストすることが重要です。



2つのM3固定ナットを上部の穴に差し込み、ホルダーに差し込みます。結束バンド2本を使ってバッテリーをマウントに固定し、取り付けます。

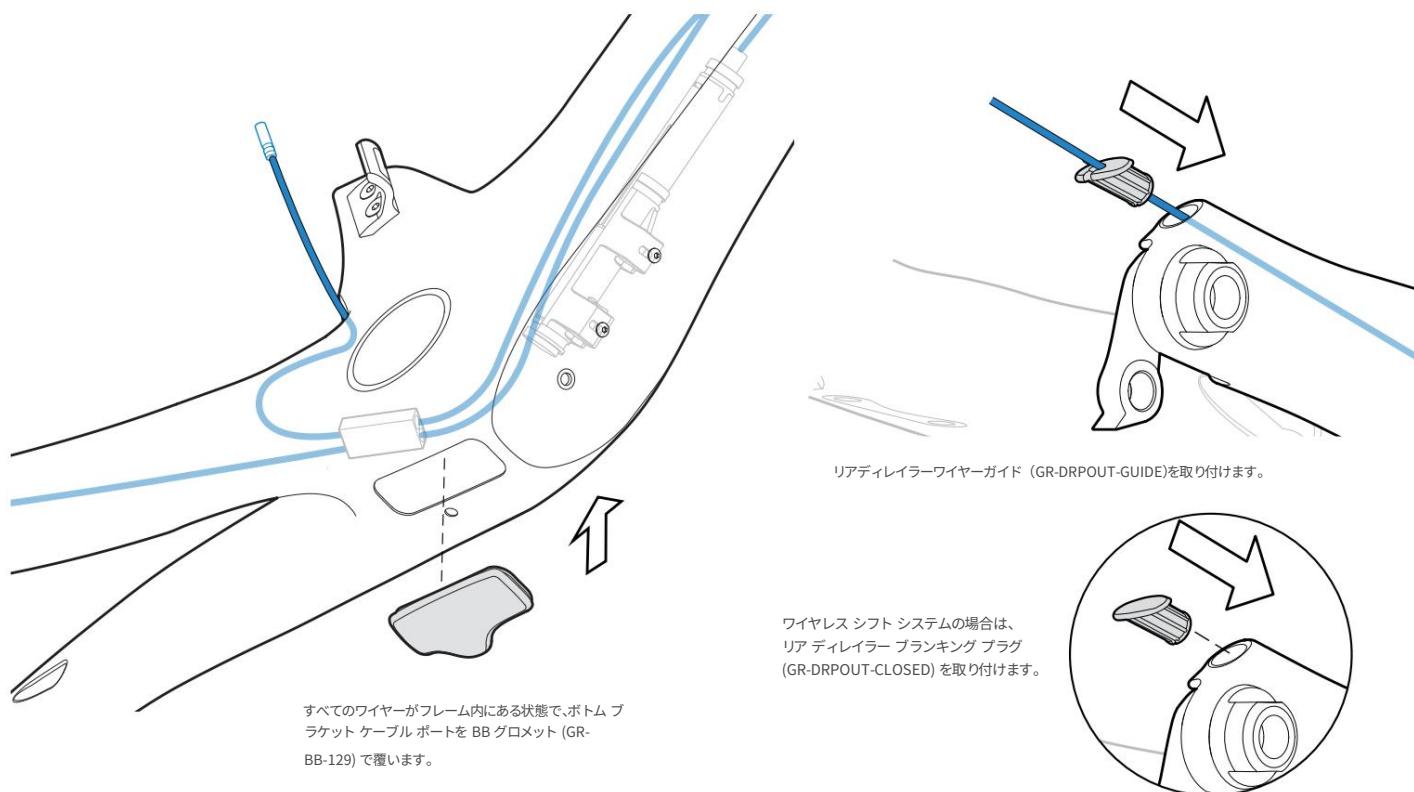


M3固定ネジにLoctite 242を塗布してください。取り付け穴に通して固定ナットをバッテリーホルダーに引っかけ、軽く締めて固定します。
5mm六角レンチを取り外します。2mm六角レンチを使用して、取り付け穴に固定ネジを最大2.5Nmで締めます。

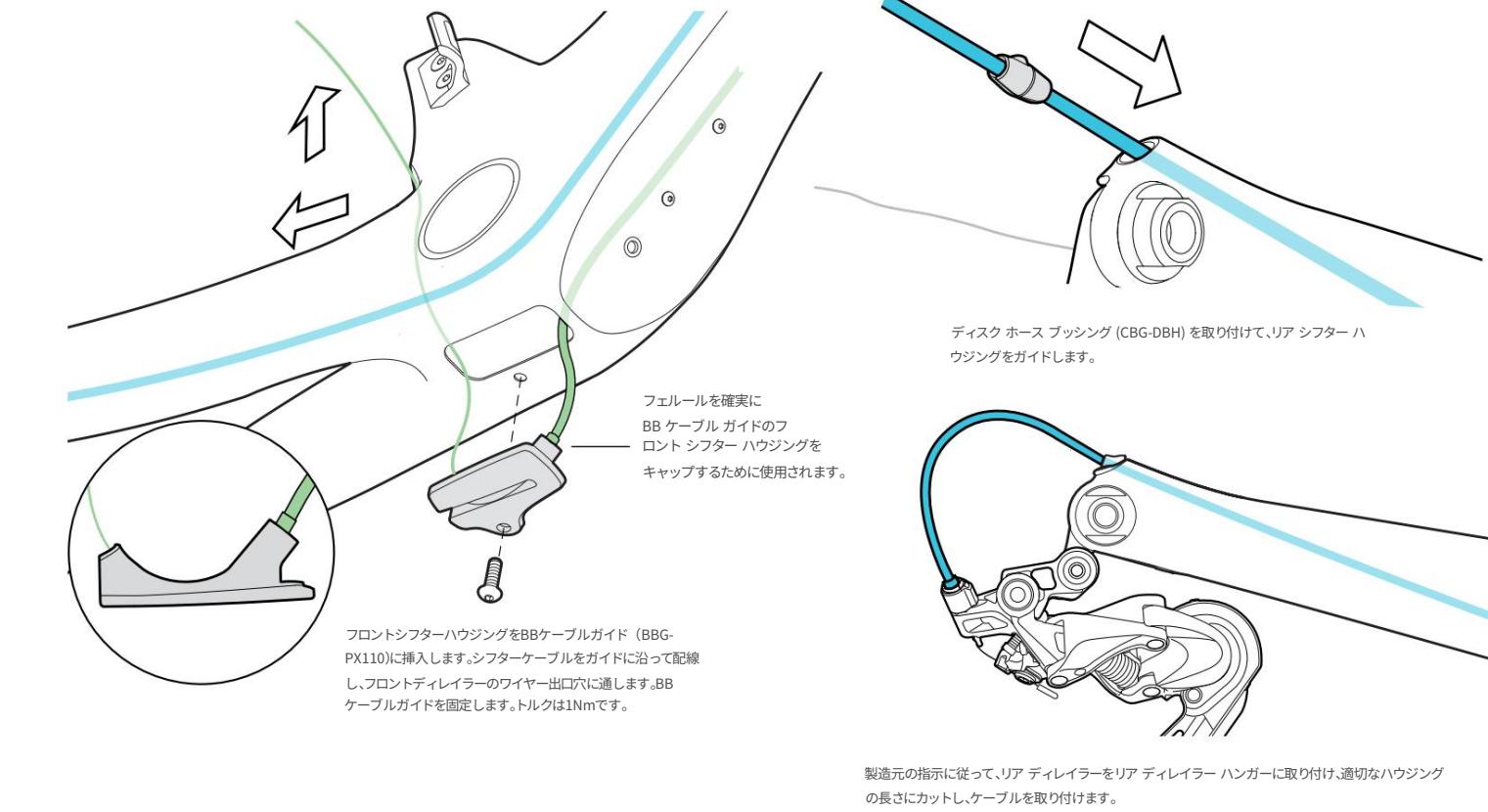


* より大きなサイズの場合、5mm六角レンチではなく、5mmのフレキシブル工具を使用してバッテリーホルダーを取り付ける必要がある場合があります。ブレーキハウジングの一部を使用することもできます。

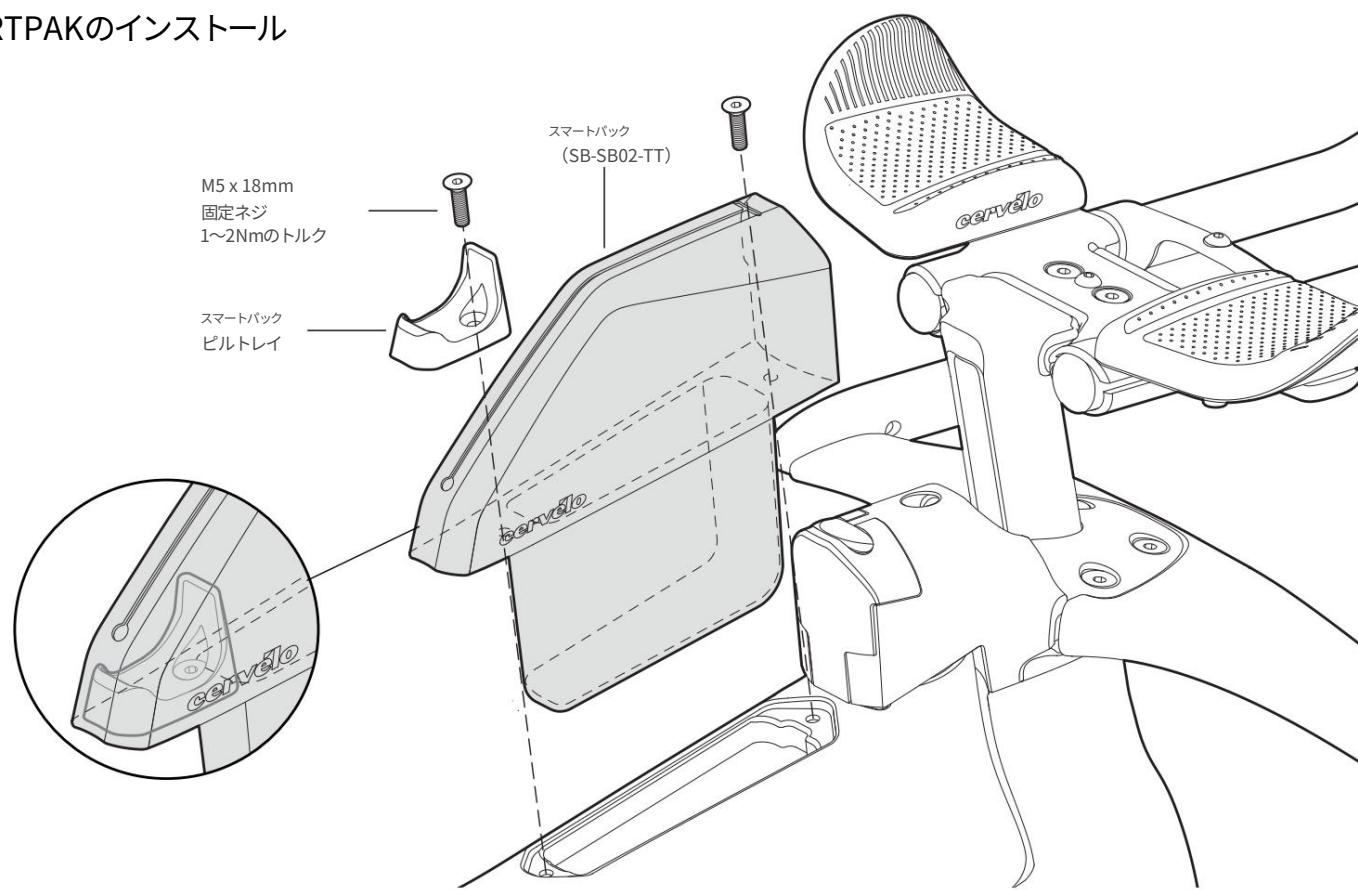
電線設置



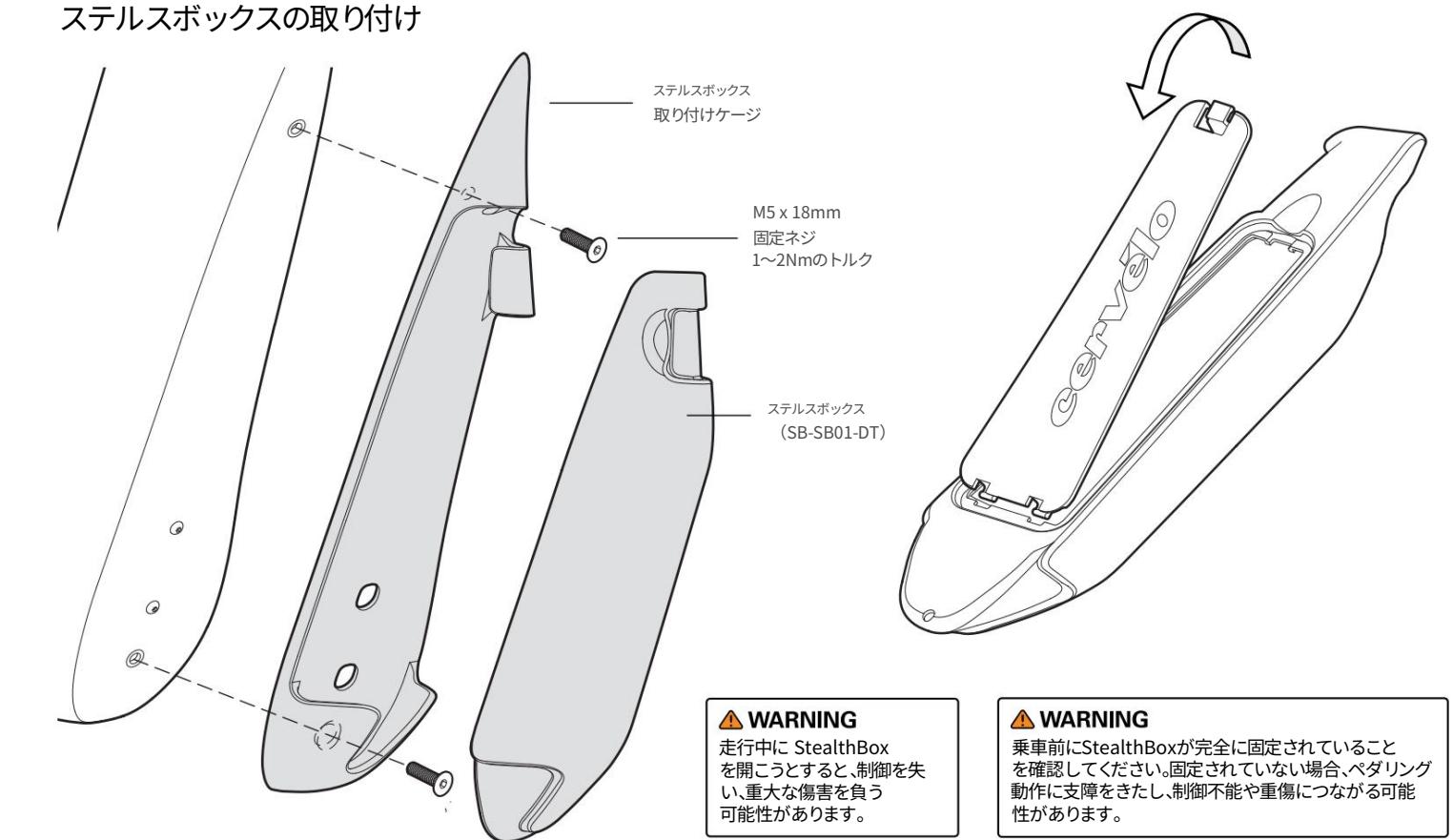
機械ケーブルの取り付け



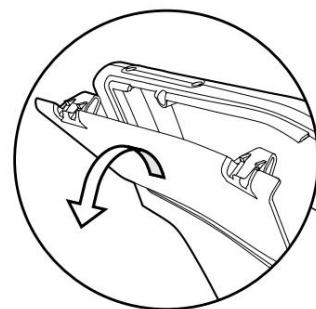
SMARTPAKのインストール



ステルスボックスの取り付け

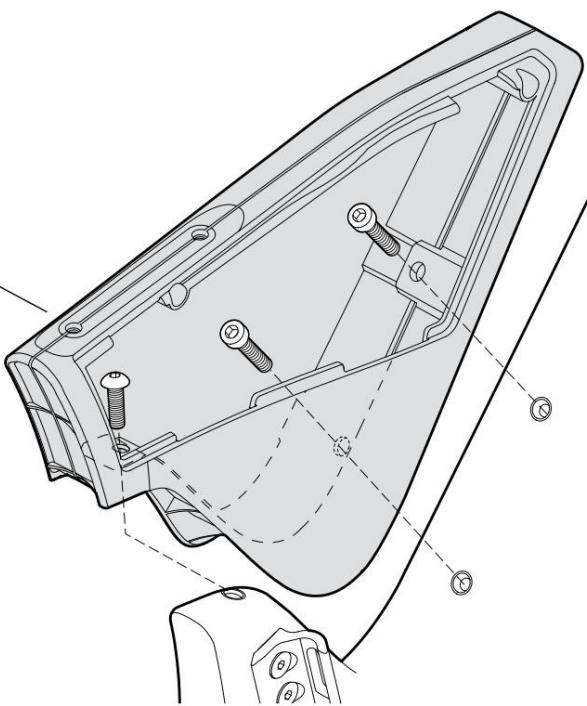


スピードケースの取り付け

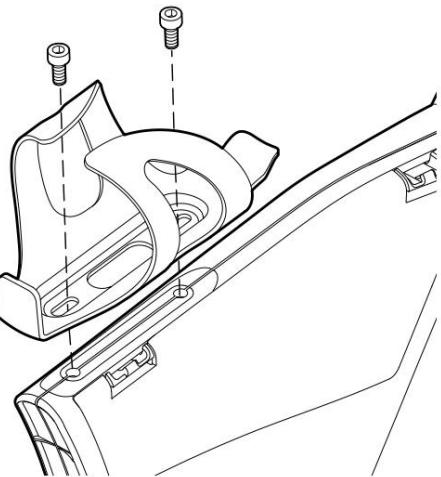


ドライブ側のドアを取り外します。
軽くグリースを塗った3本のM5固定ネジを使用して、SpeedCase(ASY-P5X-DTBOX)をフレームに固定します。

1Nmのトルクで締めます。



ウォーターボトルケージは、M5固定ネジを使用してダウンチューブ収納ボックスクに取り付けることができます。締め付けトルクは2Nmです。



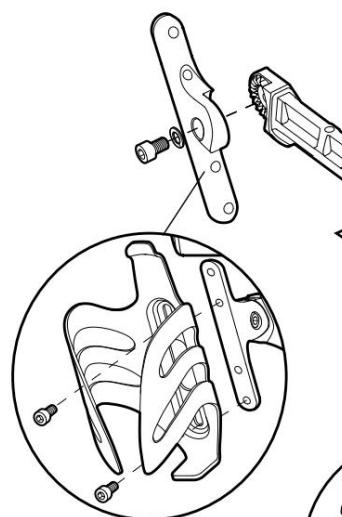
WARNING

走行中にSpeedCaseを開けようすると、制御を失い、重大な傷害を負う可能性があります。

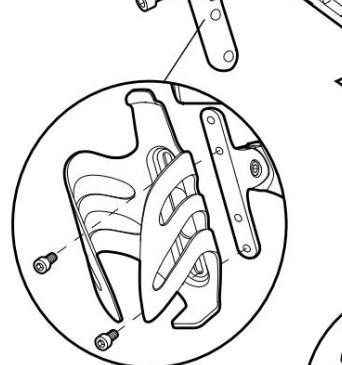
WARNING

乗車前に、SpeedCaseのドアラッチが完全に固定されていることを確認してください。固定されていない場合、ペダリング動作が妨げられ、制御不能や重傷につながる可能性があります。

シートポストアセンブリ



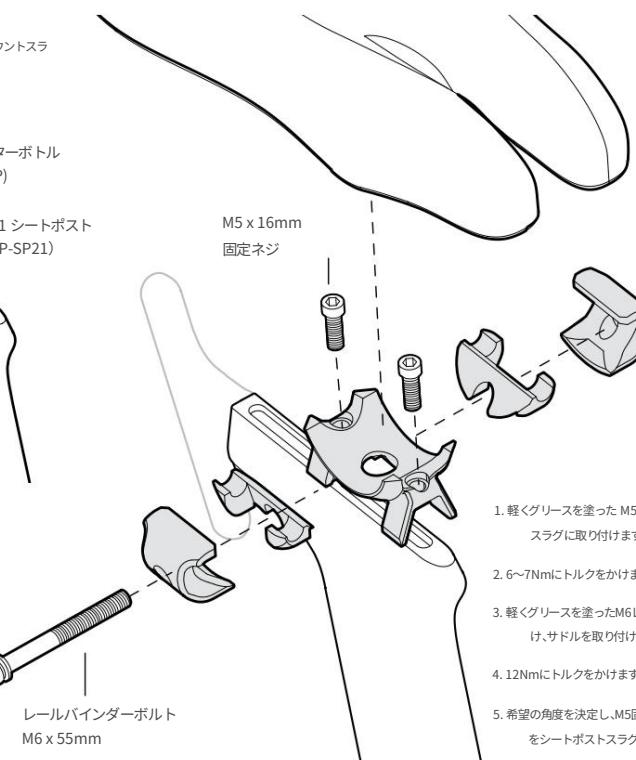
軽くグリースを塗ったシートポストボトルケージマウントスラグをシートポストに差し込みます。



軽くグリースを塗ったM5×8mm固定ネジを使用して、ウォーターボトルケージを取り付けます。トルクは2~3Nmです。

ボトルケージマウントを使用しない場合は、代替シートポストスラグ(SPS-SP2123)を使用してください。

ボトルケージマウントを使用しない場合は、代替シートポストスラグ(SPS-SP2123)を使用してください。



1. 軽くグリースを塗ったM5固定ネジを使用して、サドルマウントをスラグに取り付けます。

2. 6~7Nmにトルクをかけます。

3. 軽くグリースを塗ったM6レールバインダーボルトを取り付け、サドルを取り付けます。

4. 12Nmにトルクをかけます。

5. 希望の角度を決定し、M5固定ネジを使用してウォーターボトルマウントをシートポストスラグに取り付けます。

6. 4Nmにトルクを掛けます。

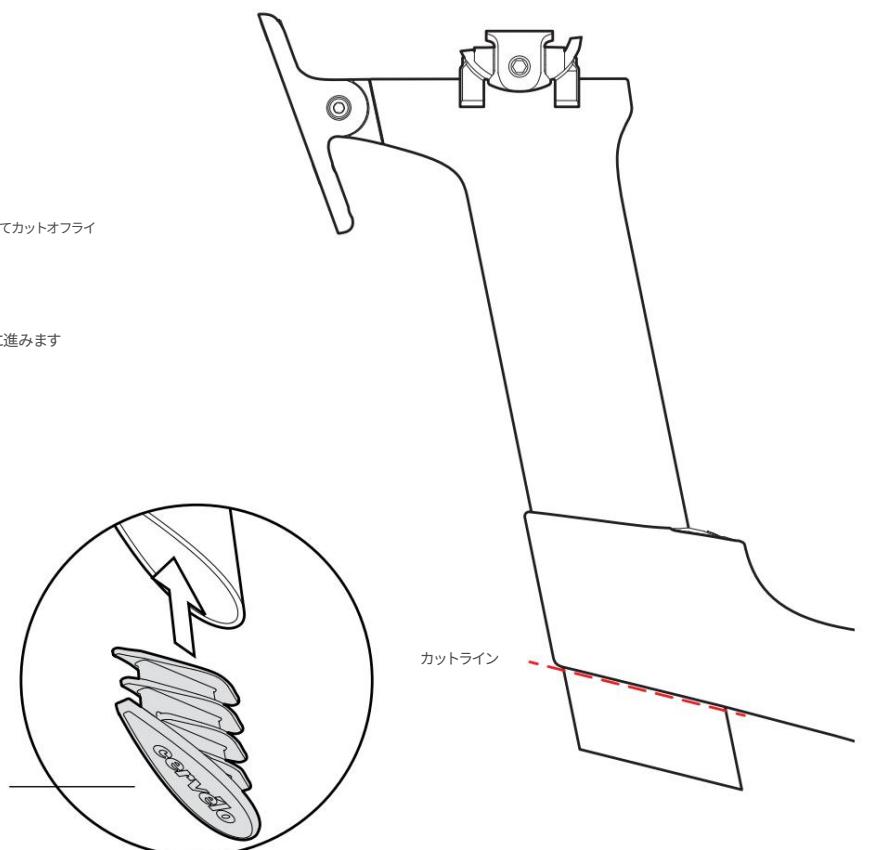
シートポストの切断手順

- 最終的なサドルの高さを確認し、テストします。
- シートポストのシートチューブの下端をなぞって、シートポストの切断線をマークします。
- シートポストを取り外します。
- シートポストを Park Tool SG-7.2 ソーガイド（または同等品）に挿入し、ツールのブレードガイドを通してカットオフライ
ンがはっきりと見えるようにします。
- カーボン複合材を切断するために特別に設計された刃を使用する
材料（または1インチあたり32歯以上の細かい歯の刃）を用意し、シートポストの切断に進みます
(Park Tool の指示に従って)。
マークされた線から5mm以内の余分なシートポストを切り取ります。
- 細かい目のサンドペーパーを使って、ほつれやバリを丁寧に取り除きます。
切断面からフレームに戻し、PXシリーズシートポストプラグ（SPP-PX）を取り付けます。

WARNING

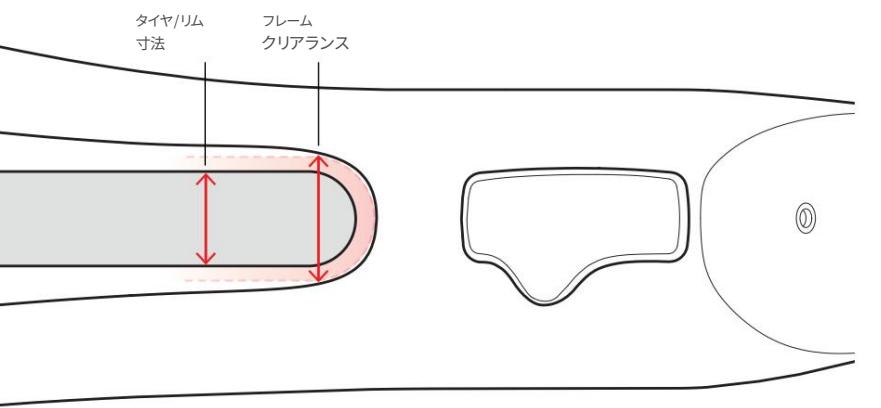
トリミングが必要な場合、最終的な長さではフレーム内にシートポストが最低6.5cm残るようにする必要があります。
この要件を満たさない場合、保証ポリシーの対象外となるフレームの損傷や、ライダーの重傷につながる可能性があります。

PXシートポスト
プラグ（SPP-PX）



タイヤクリアランス

Cervéloバイクは、タイヤクリアランスに関するISO 4210-2:4.10.2規格に準拠しています。これらの安全基準を遵守し、限定生涯保証を維持するには、タイヤとフレームのあらゆる要素の間に最低4mmのクリアランスを確保する必要があります。タイヤとリムの接合部はますます複雑化しているため、Cervéloではタイヤを選ぶ前に、利用可能なスペースを確認することを推奨しています。



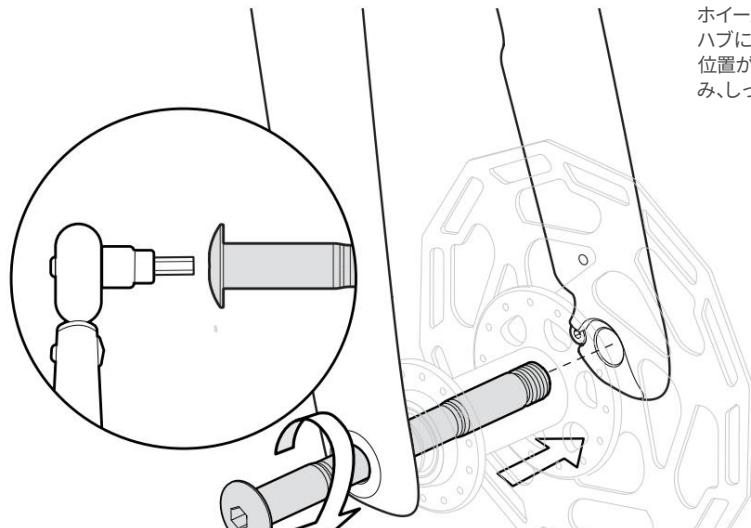
- ボトムブラケット接合部におけるチェーンステー間のスペースを測定します。
- タイヤの上部にあるシートステー間のスペースを測定します。
- その2つの数字のうち小さい方を使って、残りのスペースを決定するには、8mm（片側4mm）を差し引きます。
- タイヤをホイールに取り付けて完全に空気を入れた状態で、リムまたはタイヤの最大幅を測定して、フィットすることを確認します。

WARNING

タイヤまたはリムとフレームまたはフォークが接触する
と、走行中に制御を失い、重大な傷害を負う可能性があります。

これらのガイドラインに従わなかった場合、Cervélo 限定生涯
保証の対象外となるフレームの損傷が発生する可能性
があります。

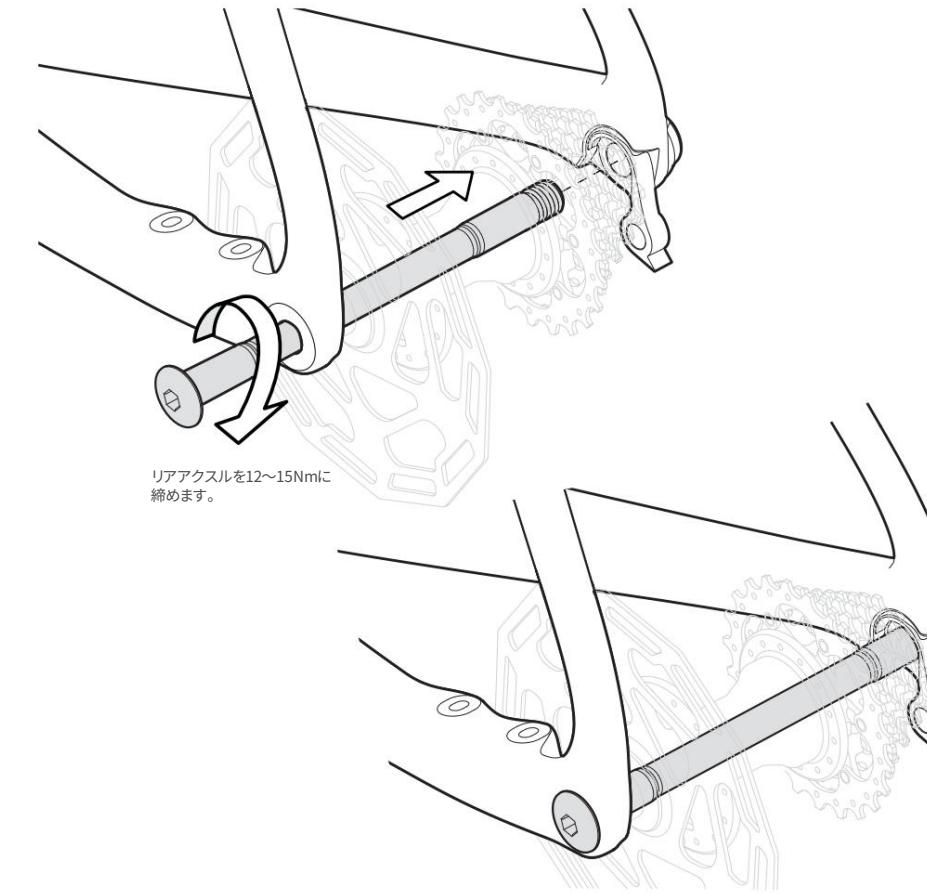
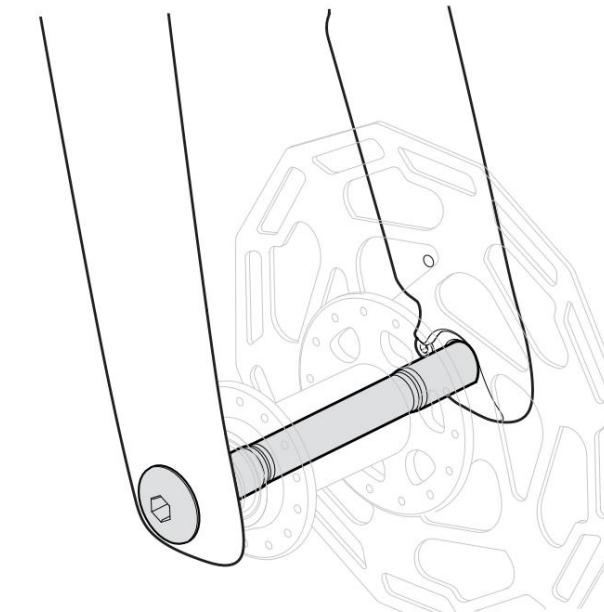
エアロスルーアクスルの取り付け



WARNING

ライダーの安全を確保するためには、Cervélo Aero Thru-Axleを正しく取り付けることが不可欠です。正しく取り付けないと、ライダーが重傷を負う可能性のある事故につながる可能性があります。

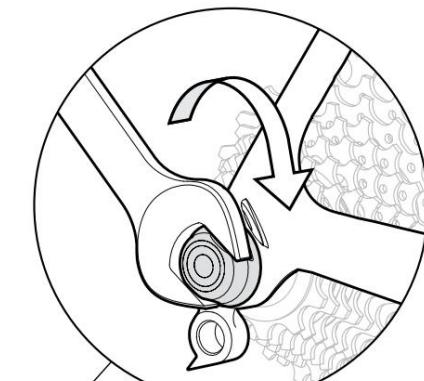
ホイールを固定するには、グリースを塗布した車軸をドロップアウトとホイールハブに通し、車軸のねじ山側をねじ込み式インサートのねじ山部分に合わせます。位置が合ってかみ合ったら、車軸をインサートのねじ山部分に時計回りにねじ込み、しっかりと固定します。



WARNING

製造元の指示に従ってブレーキを調整します。

17mmレンチを使用して、リアディレイラーハンガーナットを最終締め付けします。トルクは12~15Nmです。この作業は初期組み立て時にのみ行うため、追加の調整は必要ありません。



注記

PXシリーズ リテーラー組立マニュアル

CER-PX-V2 2020年1月31日

center